第６９次印旛地区教育研究集会
（社会科教育・小学校）

社会的事象のその先に関心をもち，共創する力を培う社会科学習のあり方

～３Ｒ単元サイクルを活かして～

八街市立朝陽小学校
山本　修平

1　研究主題

社会的事象のその先に関心をもち，共創する力を培う社会科学習のあり方 ～３Ｒ単元サイクルを活かして～

2　主題設定の理由

（１）現代社会の要請から

現代社会は，様々な問題を抱えている。その中でも「ごみ処理」の問題は，文明とともに始まり，その処理の方法は時代によって異なる変化を遂げてきた。現代では，消費生活における包装の変化，レジ袋の普及など様々な要因で「ごみ」は増え続けている。小さな島国である日本は，他国のように埋め立てができる量が限られている。そのため日本の焼却施設は平成２８年度の時点で１，１２０炉であり，世界第一位の保有国となっている。しかし，焼却することができたとしても，残った灰の処理が必要になる。このようなごみ問題は日本各地で課題とされており，これから持続可能な社会を実現するために考え続けていかなければならない問題である。そのような問題がある中，各自治体では，不要物として出された粗大ごみや小型家電を清掃・点検し，再利用したり，「ごみ」として出されたものを資源として活用したり不断の努力を続けている。「ごみ」が自分達の生活と密接な関連があることに気が付き，持続可能な社会に向けて，意識を高めていくことが一人一人に求められている。

（２）学習指導要領から

学習指導要領社会編の目標では「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追及したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力」を育成することが求められている。

内容は，「処理の仕組みや再利用，県内外の人々の協力などに着目して，見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，まとめ，廃棄物の処理のための事業の様子を捉え，その事業が果たす役割を考え，表現することを通して，廃棄物を処理する事業は，衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや，生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにすること。」とあり，持続可能な社会に向けた内容である。

（３）印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習 ～自ら課題を見出し，自らの考えを実現できる児童生徒の育成をめざして～

印教研研究主題にある「生きる力」とは，自ら課題を見出し，その課題解決に向けて自らの考えをもち，表現できる力のことである。よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を身に付けた児童・生徒を育成するためには，問題を自分事として捉え，自らが考えた方法で調べ，実践意欲を育むことが必要不可欠である。人の関わりを大切にし，見学・活動を通して，将来に生きる能力・資質を養っていかなければならない。

（４）児童の実態から（４年１組　２９名）

八街市は，千葉県北部のほぼ中央に位置し，市中央部は市街地をなしており，周囲には落花生やスイカを代表とする畑作地帯が広がっている。八街市立朝陽小学校は，八街市の北部にあり，創立 134年を迎えた学校で，現在約 440 名の児童が在籍している。

事前アンケート（資料１）によると，本学級の児童は，社会科の学習に興味をもっている児童が多い。理由として「見学」「学習協力者との関わり」などが挙げられる。児童は，現場の様子や生の声を直接感じられることに楽しさを見出している児童が多いことが分かる。一方，「ごみ」ついて聞いてみると，まず「汚い」「いらないもの」「邪魔」など，全てがネガティブな意見であった。また，そのごみがどのように処理されているか問うと，クリーンセンターと答える児童は少なく，自宅のごみ箱からごみ集積所までしか認識しておらず，児童の身の回りにある社会的事象の「その先」には，関心が低いことが分かった。

話し合い活動について聞いてみると，自分の考えを相手に伝えることができるかという問いに，８割以上の児童が「できる」「どちらかというとできる」と答えたが，相手の意見を受け止めることができるかという問いには３割程度と低い現状が明らかとなった。つまり，相手の意見を受け止められず，自己の考えを深められない児童が多いことがわかった。

上記の児童の実態より，本学級の児童は，ごみ処理への関心が低く，自分事して捉えられていない。そのため，本単元において「ごみ」と認識しているものでも実は価値があり，自分と密接な関係があるという持続可能な社会づくりに向けて意欲や資質・能力を高めていきたい。目の前の社会的事象の「その先」に関心をもたせ，一人ではなく共に持続可能な社会を創りあげていく児童を育てたいと考え，本研究主題を設定した。

３　主題について

（１）社会的事象のその先に関心をもつとは

本単元において，「その先」とは，二つの意味をもつ。一つ目は，事象の最初と最後だけでなく，その間の過程のことである。児童にとってごみは，毎日出るものであるが，ごみ箱から収集所までしか知らない。それらが最終的に処理されているという部分は知っているが，その間の過程のブラックボックスになっている「その先」に関心をもち，社会的な見方・考え方で，「その先」を捉えられるようにすることである。

二つ目は，今後，自分が社会的事象とどのように関わり，持続可能な社会を実現させていくのかという未来における「その先」に関心をもたせていきたいと考えた。

これらの持続可能な社会に関わる「その先」に関心をもつことが，本研究の社会の形成者としての資質と捉えた。

（２）共創する力とは

①問題を解決しようとする児童が，主体的に他者と関わりながら，調査する力

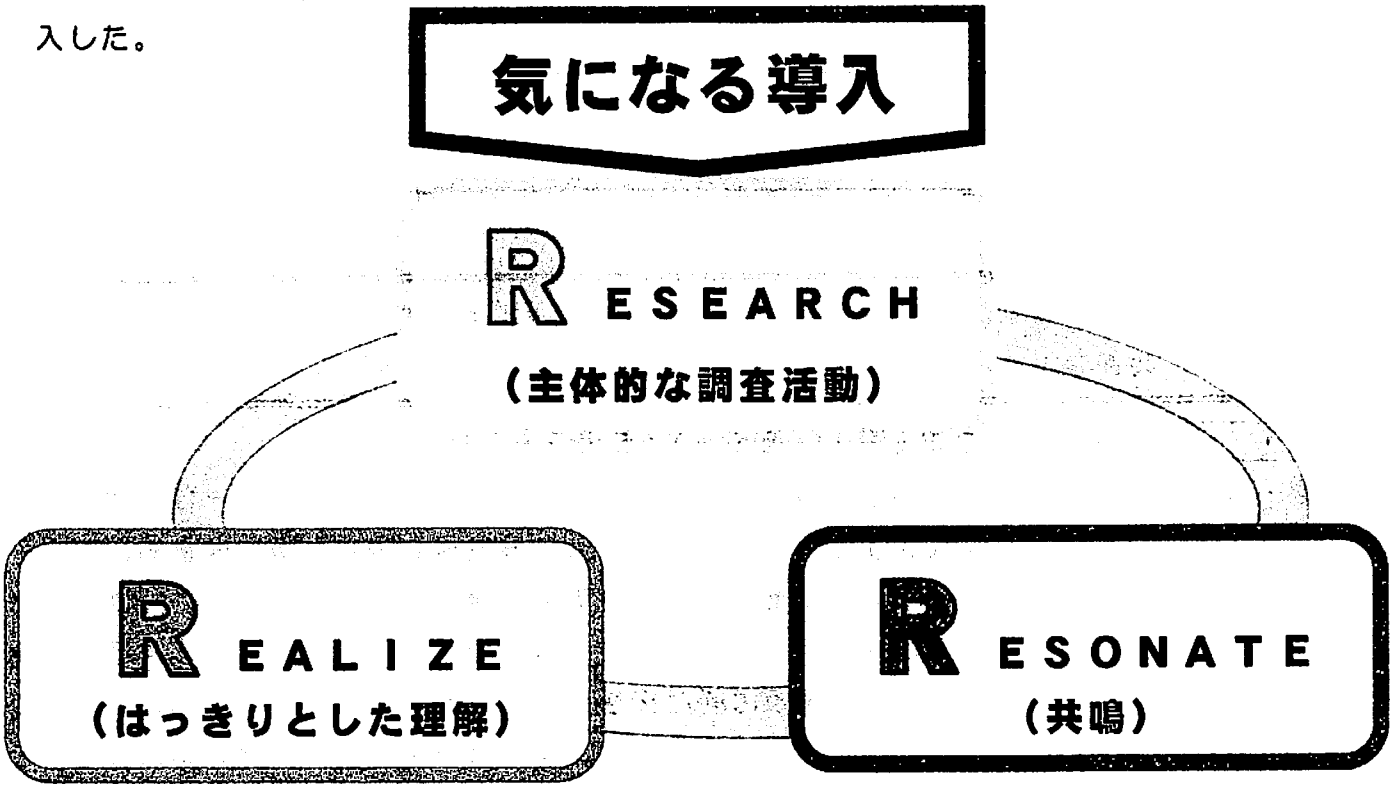
②社会的事象を多面的・多角的に捉え，正しい社会認識を得る力。

③持続可能な社会に向けて，互いに思いを共鳴させ合い，問題を追求・解決する力。

この３つの力を共創する力と定義し，これらの能力を培っていきたいと考えた。

（３）副題　３Ｒ単元サイクルを活かすとは

ごみ処理の学習における３Ｒと言えば，リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生使用）であるが，本研究の３Ｒ単元サイクルとは，主体的な research・リサーチ（調査）をすることで realize・リアライズ（はっきりとした理解）を目指し，resonate・レゾネイト（共鳴）する学習過程のことである。主題に迫るために，この単元サイクルを導入した。



主体的な research（調査）

調査活動と言えば，これまでは，学習問題に対して示された教科書や副読本などの資料を基に調べるという流れをとってきた。児童が自らの意思で問題を設定し，計画できるようにすることで，主体的な調査活動を行うことができるようにすることである。また，「主体的」な調査は，自ら課題を見つけ，必要な情報を集め，自分に生かすという将来的に見ても必要な力であると考える。

realize（はっきりとした理解）

社会的事象を一つの視点だけで考えるのではなく，歴史的，地理的，現代社会的な視点を取り入れて学ぶことでより深く理解し，社会認識が骨太なものになること。また，複数の立場の思いや願い，活動していることなどを聞くことで，実感を伴った理解・正しい社会認識を得ることである。

resonate（共鳴）

課題を主体的に調べ，家庭・地域・現場と３つの立場の思いや願いをしっかりと理解すること。これを本単元では，「共鳴」と定義する。これまでの社会科学習では，従事する人の思いが家庭まで波及することは少なかった。そのため，家庭を巻き込み，児童から発信することによって共鳴し合いながら持続可能な社会を目指していくことである。

4　研究の目標

本研究は，３Ｒ単元サイクルを活かすことで生まれる授業の工夫が，持続可能な社会を築き上げる児童の資質・能力の向上のために有効であることを実践して明らかにする。

5　研究の仮説と手立て

【仮説１】

児童の思考を深めるような学習の組み立てを行えば，自ら課題を設定し，社会的事象のその先に関心をもち，自分事としてとらえることができるだろう。

【仮説２】

主体性をもたせる場を設定し，家庭・地域・現場の切実な課題や思いを投げかければ，自らを振り返り，共創しようとする力を高めることができるだろう。

手立て①　「その先」が気になる導入（仮説１）（仮説２）

第一次の導入では，児童の関心の薄いごみ処理について，クリーンセンターができる前の生活と自分たちの生活の比較をする。そうすることで，ごみ処理に関心の薄い児童も，「なぜ，クリーンセンターができたのか。」「収集車がごみを集めた後，クリーンセンターではどのように処理をしているのだろう。」と「その前」と「その先」が気になるよう導入しようと考えた。第二次の導入では，活用される資源の前と後を見せ，大きく変わっているものや児童にとって意外なものなどを提示することで，ごみがどのような手段で資源に変わるのかという「その先」が気になるように工夫しようと考えた。

「その先」に関心をもたせられるように第一次では，ごみがどのように処理されているかというブラックボックスになっている過程の「その先」，第二次では，ごみには価値のある資源として活用されているという「さらにその先」，第三次では，自分が社会的事象とどのように関わり，持続可能な社会を実現させていくのかという未来における「その先」を考えられるように具体的に考えた。このように，意図的な導入によって「その先」を意識して考え，関心も高まっていくのではないかと考える。

手立て②　学習計画を自ら立てる活動（仮説１）（仮説２）

学習計画を立てる際，何を調べるのか，何で調べるのか，どのように調べるのかということを，子どもたちが考えることで，設定した課題に対して主体的に調査活動をすることができると考えた。そして，主体的な調査活動を行うことで，関心が維持しづらい学習過程後半まで意欲を維持しながら取り組むことができると考える。

手立て③　「クリーンセンター見学」の単元計画に沿ったコーディネート（仮説１）

八街市のクリーンセンター見学は，各学校間の差をなくすため，見学のコースや内容が予め組まれており，スムーズに見学活動ができるように工夫されている。しかし，１度の見学

で必要な情報を網羅できるように作られているため，学習の流れとかみ合わず，十分に活用できていない場合が多いことに問題を感じた。そこで，本研究では，児童の思考の流れに沿って効果的な見学活動にするため，クリーンセンターと学習内容について事前に共有し，見学先であるクリーンセンターで教師主体の授業を行おうと考えた。そうすることで，必要な情報を適切なタイミングで与えることができ，より効果的な調査活動になると考える。また，見学とは別に従事者と対話する機会を設け，段階的に「ごみの処理と利用」についての認識をつけることができるようにする。

手立て④　リアライズシートを使い，思考の整理や統合をしやすくする。（仮説１）（仮説２）

第一次のリアライズの過程，つまり調べたことをはっきりとした理解に変えるために「リアライズシート」を使う。リアライズシートとは，学習問題に対して分かったことや思ったことを付箋に記述する。その下にまとめを書く枠を作り，まとめに使える情報を選び，線で結ぶものである。学習問題を上部に書いてから取り組ませることで，学習問題から逸脱せずに考えることができると考える。また，分かったことを並べ，その中から必要なものを選ぶことで，調べたことを統合するとまとめになるということに気付かせるようにしたい。ツールが正しい社会認識を得るための一助となると考えた。

手立て⑤　学習協力者との対話的な活動（仮説１）（仮説２）

児童が計画した調査計画をもとに，電話やメール，ＦＡＸなど，様々な調査方法で学習協力者との対話的な活動を行う。ここで，調べたいことを聞くとともに，従事する人の思いや願いなどに触れることで，児童の心は響き，その思いや願いを自分も実現させていこうと共鳴し合うことができるのではないかと考えた。

手立て⑥　家庭を巻き込む学習（仮説２）

第一次導入で，分別が面倒だという家庭の正直な思いがあった。そこに学習者である児童がリーフレットなどの表現物を使って働きかけたり，学んだことを伝えたりする。そうすることで家庭も「知る」ことができ，その協力意識に変化が生まれる。保護者の意識が変化すればその環境で育つ児童も意識を高めることができると考える。学習協力者と対話した際には，受動的な共鳴であったが，単元終盤では，児童が共鳴したことを家庭にまで共鳴させるという能動的な共鳴ができるように育てていきたい。

【仮説と手立ての関わり】

	手立て① 気になる導入	手立て② 主体的な学習計画	手立て③ コーディネート	手立て④ 思考の整理	手立て⑤ 学習協力者	手立て⑥ 家庭を巻き込む
【仮説１】	○	○	○	○	○	
【仮説２】	○	○		○	○	○

6　学習のアウトライン

気になる導入①
現在のごみ処理とクリーンセンターができる前のごみ処理を比較し，「分別」の有無によって現在のごみ処理は規制が多く大変であることからクリーンセンターの必要性について疑問をもち，学習問題をつくる。

RESEARCH①
問題解決のため，自ら学習計画をたて，主体的な学習を目指す。

REALIZE①
調べて分かったことを分類・整理し，その中から学習問題に対する答え（まとめ）として使えるものを選択し，選んだものを使って文章化する。

気になる導入②
クリーンセンターでの学習を想起し，土屋さんが話していたことや見学時に触れなかった缶や瓶，ペットボトルなどの再生利用後の姿を見せ，資源回収後のその先を考えて，学習問題をつくる。

RESEARCH②
問題解決に向けて，再度学習計画をたてる。

REALIZE②
第一次と同様に分かったことを分類・整理・選択し，まとめをつくる。

RESONATE
ごみの処理・活用について理解した上で，実は多くの問題を抱えるものであることを知り，自分達もどうにかしなくてはいけないという思いを，「共鳴」に繋げる。

現在のごみ処理 ⇔ **比較** ⇔ **むかしのごみ処理**

分別が面倒。
どこでどうやって処理しているの？

クリーンセンターができる前の方が楽。
なんでクリーンセンターができたの？

手立て①

クリーンセンターはなぜ必要で，どのようにごみを処理しているのだろう

手立て②
リサーチシート作成

クリーンセンター
- 環境への配慮
- 市民のための努力・工夫

手立て③
クリーンセンターでの授業
ごみ収集車見学

こんなに大変なことをやってくれているんだ。
知らないことがたくさんあった。
資源って何？ごみではないってどういうこと？

手立て④
リアライズシート（情報の整理・分類・選択）

クリーンセンターは，安全な八街市にするために必要である。クリーンセンターでは，燃えるごみと埋め立てごみを処理しており，燃えるごみは有害な煙が出ないように高い温度で燃やし，埋め立ては，地下水に影響が出ないようにするなど，環境に配慮されている。

手立て①

燃えるごみと埋め立てごみ以外はどうなっているの？
土屋さんは，「それ以外のごみは，資源に変わるよ。」と言っていたね。

生まれ変わる資源

ごみは，どのようにして資源に生まれ変わっているの？

集められた不用品は，どのように生まれ変わっているのだろうか。

手立て②
リサーチシート再作成

手立て⑤
FAX調査
電話調査
メール調査

クリーンセンター
- 集められた資源は県内外で協力して活用している
- ごみの削減や減量化をして市民のためにお金が使えるようにしたい

リサイクル業者
- 資源は限りあるものだから，残された資源を大切に未来の子供たちに残したいという強い思いをもってリサイクルしている。

手立て④
リアライズシート（情報の整理・分類・選択）

集められた不要なものは，県内外の関係施設と協力して溶かす・砕くなどの処理をされ，原料として再生利用されている。また，資源は必要としている場所に運ばれて活用されている。活用をしている人たちは，資源を守りたい，未来に残したいという思いをもって仕事をしている。

手立て⑤
クリーンセンター
土屋さん
- 社会的に見ても，ごみは大きな課題を抱えている。特にプラスチックはもう処理しきれない状態になっている。
- 分別も大切だが本当に大切なのはごみを出さないこと，自分のものを大切に使ったり，最後まで使ったりすること。

自分達にできることあるかな

一人ひとりの行動はとても大切だけど・・・
問題を解決できるかな

私達の思いを実現するには…

手立て⑥
リーフレットづくり
家庭へ紹介

児童
家庭　**共創**　地域
クリーンセンター

7　仮説の検証と授業の実際

仮説１の検証

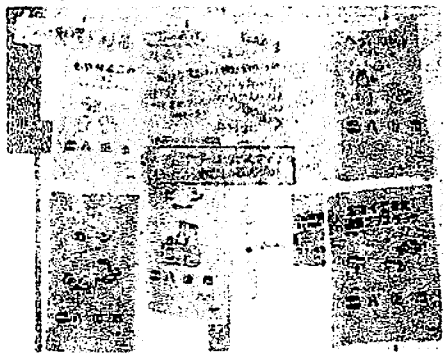
【検証Ⅰ】自ら課題を設定し，その先への関心をもつことができたか

Ｔ：ごみは毎日出るけど，その処理ってどうしていますか？

Ｃ：袋に入れて，ごみ捨て場に出しています。

Ｔ：ごみ袋って種類がたくさんありますよね，正直，どう思いますか？

Ｃ：分けたり，分解したりで面倒くさいです。



Ｔ：そうですね。では，みんなはごみ捨て場のその先を知っていますか？

Ｃ：クリーンセンターというところで燃やされる？

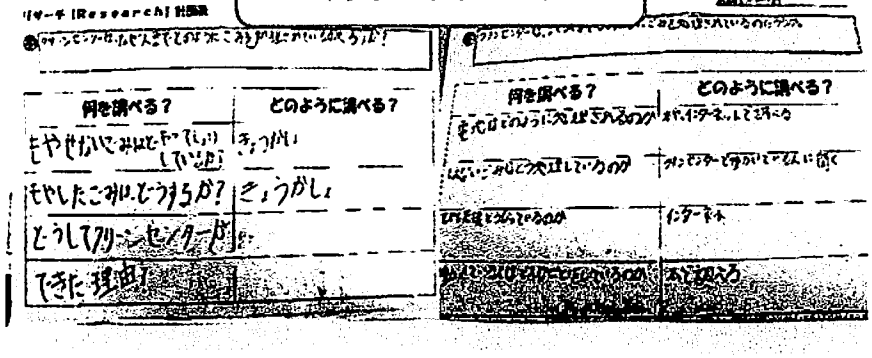
Ｔ：よく知っていますね。ところで，クリーンセンターができる前はどうしていたと思いますか。

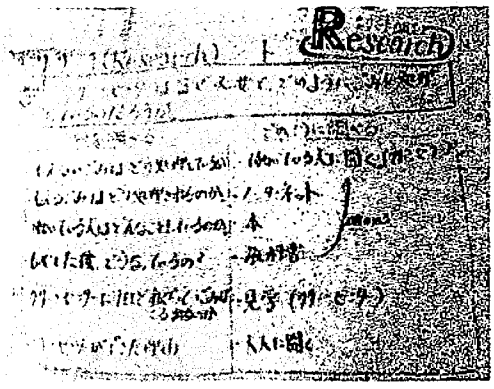
Ｃ：家で燃やしていた？まとめてどこかへ捨てていた？

Ｔ：実は，その通り。分別せずに捨てることができたそうです。どう思いますか？

Ｃ：えー！昔の方がいいじゃないですか，今は分別が多くて大変，なぜクリーンセンターを建てたのだろう。クリーンセンターってどんなところで，ごみをどのように処理しているのだろう。

課題設定と学習計画
（リサーチシート）





自分たちが毎日接している「ごみ」，その処理について児童や保護者も面倒と感じている。そこに昔のごみ処理についての情報を伝えると，現在のごみ処理に対して，児童の関心が一気に高まった。さらにそこから，児童の湧きあがる疑問や思いを学習問題として設定したことで，児童の既存の知識のその先に関心をもたせて，学習を進めることができた。また，学習をしていく中で児童の情意面・行動面にも変化が見られるようになった。（資料２）

【検証Ⅱ】社会的事象を自分事として捉えることができたか

第一次

・燃やせるものはここに集めていて，臭いや虫を発生させないように薬を撒いている。
・燃やすときには体に害がある煙を出さないように高い温度で燃やしているよ。

クリーンセンターでの授業

私たちのためにいろいろな努力をしてくれているんだね。
自分達の出したごみをここで処理してくれているんだ

・ここに埋め立てをしています，地下への影響を考えて埋め立てるものはガラス・陶磁器類だけにしています。

第二次

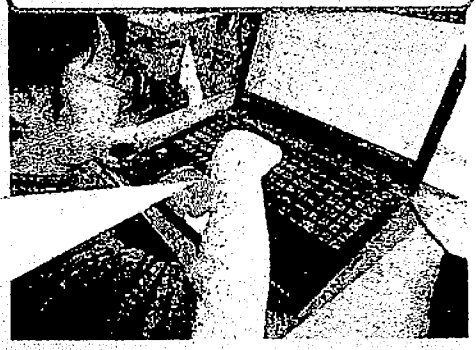
電話による再調査活動

センターの方の回答内容
・資源は県内外の業者さんと協力して活用しています。
・ごみの資源化・減量化が進めばその処理に係る費用を市民の皆様のために使えます。

（児童の感想より）

自分達の出したごみが，いろんなところで使われているなんて知らなかった。ごみの中には資源として価値のあるものもあることを知った。

メールによる再調査活動

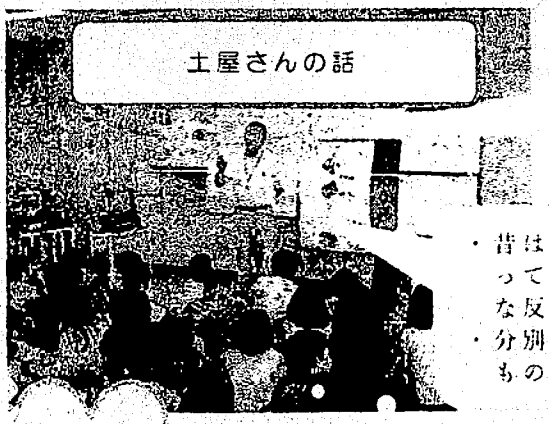


（児童の感想より）

再利用する会社で働いている人は，資源を私たちや未来のために残そうとしていることを知ってびっくりしました。

リサイクル業者の回答内容
・資源は限りがあるので，再利用できるものは再利用する。限りある資源は将来の子ども達へ残しておきたいという強い思いをもち，リサイクル事業を行なっています。

土屋さんの話



・クリーンセンターの埋立地，ごみの減量化が進んで期間は伸びたが，限界は来てしまう。
・社会的に見ても，ごみは大きな課題を抱えている。特にプラスチックはもう処理しきれない状態になっている。

・昔は，買い物にお皿や鍋を持っていき，そこに食材を入れてもらっていた。今ではトレーに入れられてレジ袋に入れてくる。便利な反面ごみは多く出てしまう。
・分別も大切だが，本当に大切なのはごみを出さないこと。自分のものを大切に使ったり，最後まで使ったりすること。

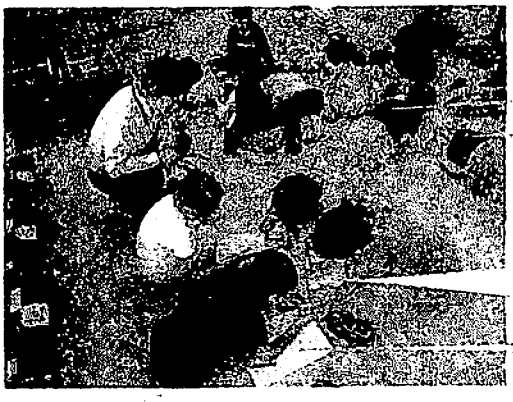
共鳴

自分達にできることがあるんじゃないかな

学習前は，ごみと自分は関係がないとしていた児童も，クリーンセンターの方や関係施設の方などの話によって学習後は，自分とごみの密接した関係を認識し，自分事として考えられるようになってきた。（資料３）

仮説２の検証

【検証Ⅲ】学習を通して自らを振り返ることができたか



自分ができることってあるのかな。

自分のものを大切にしているかな。

レジ袋をいらないと断るということも
大切なんだね。

家でのごみの捨て方を変えてみよう。

（児童の感想より）

僕は，ごみの勉強をやる前までは，面倒くさくてすぐ捨てていたけど，ごみの勉強をしたら強い思いで処理されていたから僕も協力しようと思いました。

（児童の感想より）

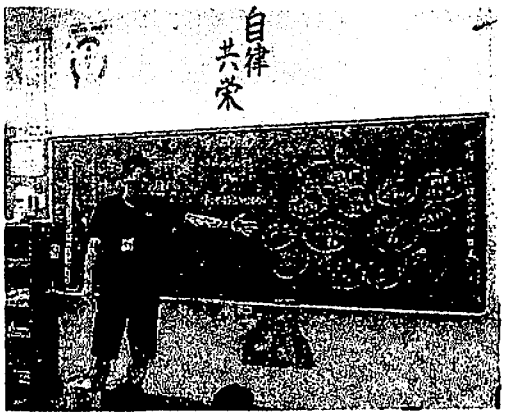
私は，前まで家でストローを使ってジュースを飲んでいたけど，この勉強をして無駄づかいしちゃダメなんだということが分かり，ストローを使わなくなりました。

（児童の感想より）

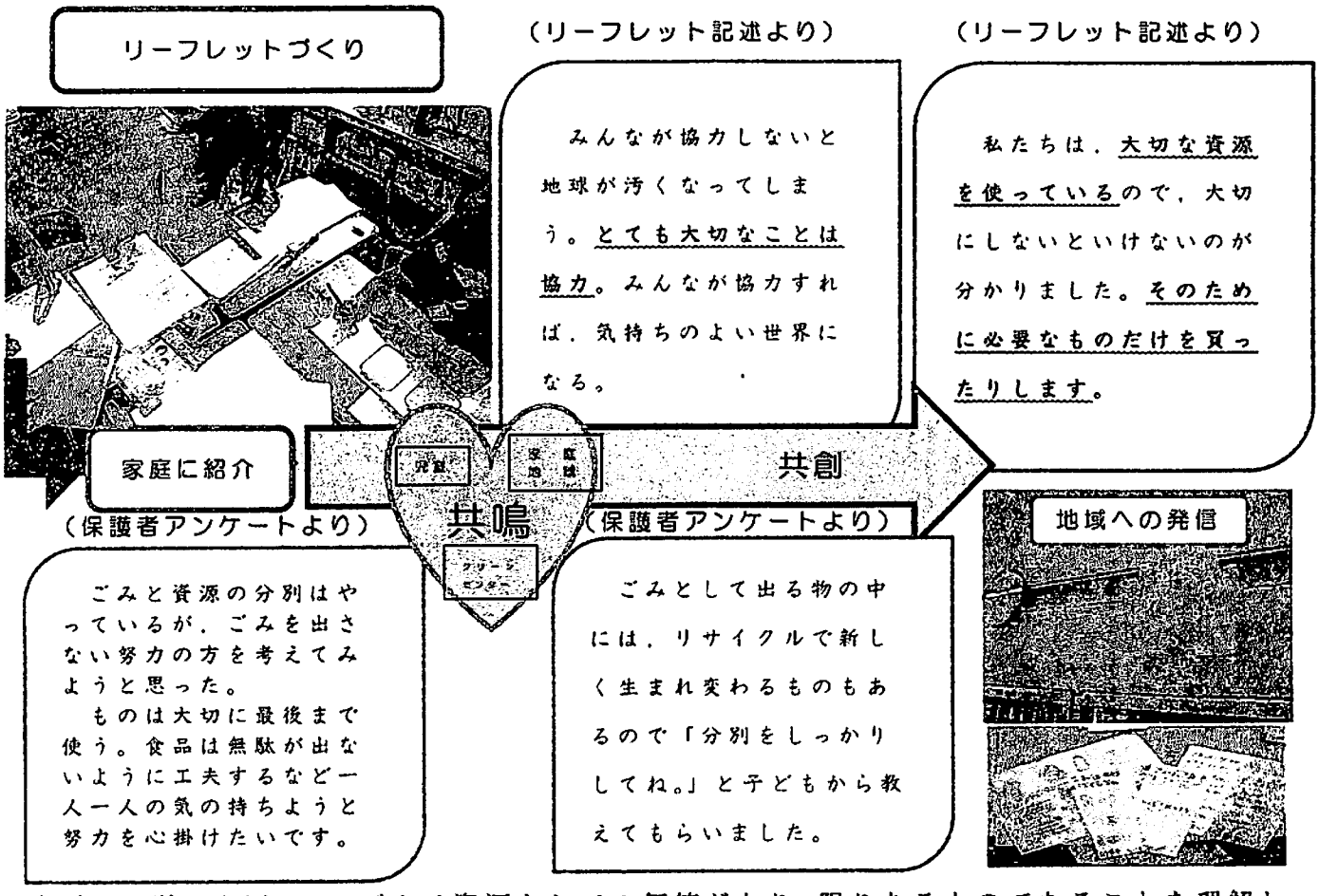
私は，前まで分別があまり好きではありませんでしたが，ごみの処理と利用の勉強をして私は分別がまあまあ好きになりました。

事前アンケートでは，これまでの学習で自分を振り返ったり，行動に変化があったりするという児童はいなかった。学習後には，全員が何かしらの意識・行動の変容が見られた。ノートには，これまでの自分の生活を自省し，これからのことについて書くことができた児童が多かった。（資料４）

【検証Ⅳ】共創しようとする力を高めることができたか



Ｔ：自分達にできることはありましたか？
Ｃ１：ストローを使わない。
Ｃ２：レジ袋を断る。
Ｃ３：自分のものを大切にする。
Ｃ４：必要なものだけ買うようにする
Ｔ：たくさんありますね。では，それができれば，ごみの問題は解決できますね？
Ｃ：んー……。少しは変えられるかも…。でも大きくは…。
Ｔ：大きくは変えられていないなら，どうすればよいのでしょう？
Ｃ：みんなでやればいいのかも。もっと多くの人に広められるといい！
Ｔ：多くの人に納得してもらうためにまずは，自分達の取り組みをまとめた方が良さそうだね。



児童は，単元を通して，ごみは資源としての価値があり，限りあるものであることを理解し，持続可能な社会づくりの視点から自分事して振り返ることができるようになった。また，一人の力は大きくないことを自覚し，共鳴する大切さに気が付き，問題解決をしようとする姿勢に変容が見られた。保護者アンケートでは，児童の思いに共鳴し，保護者のごみに対する見方・考え方が変容している。家庭が変われば，その環境で育つ児童も変わっていくのではないだろうか。3R単元サイクルを活用することで，児童の共創する力を高めることができた。(資料５)

9　成果（○）と課題（▲）

○本研究を通して，ごみ問題を自分事として捉え，児童それぞれの思いが行動に表れている児童が多くいた。また，家庭も巻き込んだ学習を行うことで，これから先にも学習が生かされていくことが期待できる。

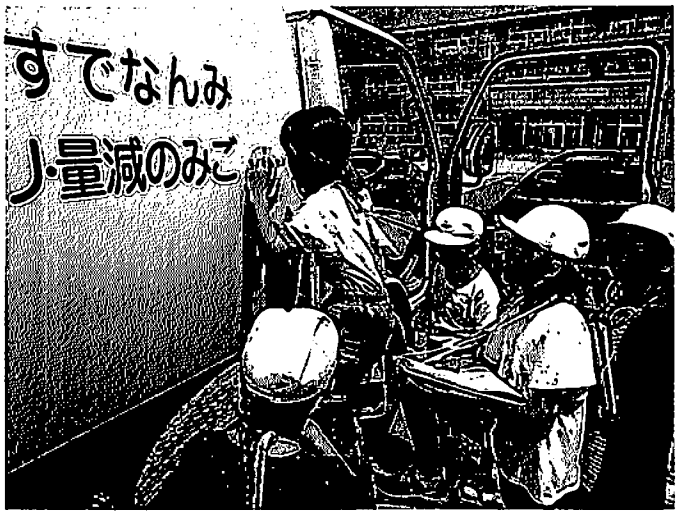
○ごみのその先（未来）に対して強い思いをもっている学習協力者に協力してもらったことで，予想以上に児童が思いに共鳴し，持続可能な社会に向けての意識を高められた。

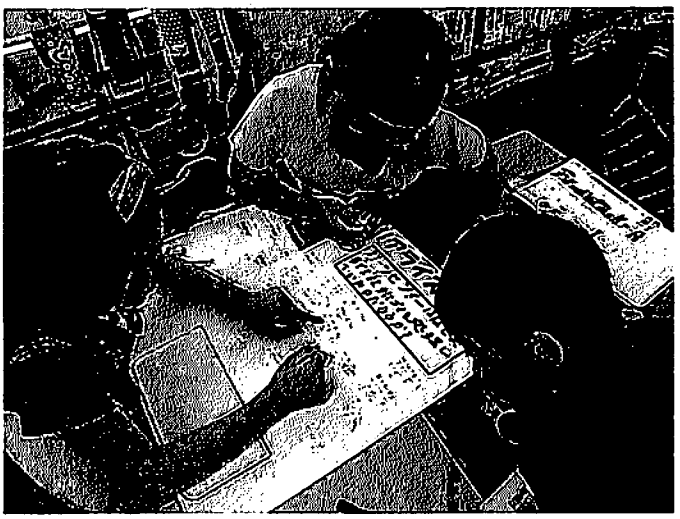
▲共創する力は，本単元のみでは，本当の力が身についたとは言えない。年間を通して，設定した資質・能力の向上を目指して。単元開発が必要である。

▲３R 単元サイクルは，今回初めて導入したため，別の単元においても実践が可能なのかどうか検証していく必要がある。

第６９次印旛地区教育研究集会
（社会科教育・小学校）

資料編





１　研究実践　・・・P１～P２
（１）単元名
（２）単元の目標
（３）指導観

２　学習協力者（外部人材）について　・・・P２～P３
（１）本研究に協力していただいた学習協力者
（２）学習協力依頼までのステップ

３　八街市のごみ処理について　・・・P３

４　各種資料
【資料１】児童の実態（事前アンケートより）　・・・P４
【資料２】自ら課題を設定し，その先への関心をもつことができたか　・・・P５～P６
【資料３】社会的事象を自分事としてとらえることができたか　・・・P７～P８
【資料４】学習を通して自己を振り返ることができたか　・・・P９
【資料５】共創しようとする力を高めることができたか　・・・P１０～P１２
【資料６】本研究で使用したワークシート　・・・P１３
【資料７】各調査の回答集　・・・P１４～P１５
【資料８】八街市社会科副読本「わたしたちの八街市」の活用　・・・P１６
【資料９】千葉県内の廃棄物処理について　・・・P１７～P１８
【資料 10】印旛８市町（八街市以外）の廃棄物処理施設について　・・・P１９
○研究体制と参考文献・資料　・・・P２０

八街市立朝陽小学校
山　本　　修　平

1　研究実践

（１）単元名　　「ごみの処理と利用～共に考えよう！その先の未来」

（２）単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
○廃棄物が安全で衛生的に処理されていることや資源の活用によって生活環境が維持・向上していることを理解することができる。	○廃棄物を処理している事業の様子を捉え，県内外の人々の協力に着目することで，その事業が果たす役割を考え表現することができる。	○廃棄物の処理・活用に関して，自ら課題を見つけ，必要な情報を集め，自分たちにできることを考えようとしている。

（３）指導観

児童の実態を受けて，本単元の構成を次のように工夫した。

第一次「ごみの処理」では，歴史的な背景を踏まえながら現在のごみ処理について考え，分別して袋に詰めたごみがどこに運ばれているのかということを調べるため，自分たちでたてた調査計画をもとに見学を行ない，クリーンセンターで処理されている可燃ごみ・埋め立てごみについてその処理方法や，衛生面や安全面で工夫していることなどを学んだ。見学は，あらかじめクリーンセンターで計画された流れではなく，児童の思考や学習の目的に合わせて教師がコーディネートし，クリーンセンター内で授業を行う形をとった。そうすることで，必要十分の情報を児童に与え，それ以上のことは疑問となる。今回は，クリーンセンター所長が「ごみ」を「資源」と言っていることや八街市のごみ袋にはペットボトルや缶，瓶などがあるのにも関わらず，クリーンセンターでは触れなかったことが児童にとっての疑問となり，第２次にスムーズに繋げることができると考えた。まとめをつくる際には，学習問題から逸脱することを防ぎ，調べたことを使えばまとめをつくることができるという経験をさせるため，「リアライズシート」を使い，分かったことや知ったことなどから，学習問題に対する答え（まとめ）に使える事項を選び，文章化していくという活動を行なった。

第二次「資源の活用」では，第一次で出た疑問をもとに再度，調査計画を立てた。自ら取り組む活動を繰り返し行うことで，調査活動の幅や効果的な調べ方などを考えることができるようになると考えた。そして，児童のたてた計画をもとに学習協力依頼をした。ここでの調査活動は電話やメール，ＦＡＸなどを用いて行った。また，それぞれの資源がどこに運ばれ，加工・活用されているのかを地図に表す活動を取り入れ，県内外で協力していることを理解できるようにする。まとめづくりは，自ら書くことができるように再度「リアライズシート」を使った。

ここまでで児童は家庭で出したごみは，クリーンセンターに集められ，可燃物と埋め立てごみは安全に処理し，その他の資源は県内外の関連施設の協力によって活用されている

ことを学んでいる。第三次「ごみのその先」では，ここまで学習したことから「クリーンセンターに任せておけば，ごみ処理に関して自分たちは何もしなくても安心だ。」ということを担任から子どもたちに投げかける。子ども達が様々な反応をしてきたところでクリーンセンターの所長さんたちに登場していただき，そこからごみ問題に対する八街市の課題や社会的な問題について話してもらう。解決したと思っていたことが実は多くの課題を抱えていることを知り，「自分たちにできること」をテーマにそれぞれが考えていくこととした。考えていく中で，子どもたちは「レジ袋を断る」や「ストローを使わない」などと具体的な活動を挙げていく。そこで，それぞれの活動は問題解決の一歩であるに違いないが，１人の力では効果に限界があることを確認し，どうすればよいかを考える。そこで出た「みんなに広げる」という意見からその方法について考え，リーフレットをつくり紹介する活動を取り入れた。作ったリーフレットを使って保護者に伝え，家庭を巻き込んだ学習を行うことで，共鳴の輪が広がり，共創しようとする力が高まっていくであろうと考えた。

2　学習協力者（外部人材）について

（１）本研究に協力していただいた学習協力者（情報提供者含む）

八街市経済環境部クリーン推進課	土屋様（八街市クリーンセンター所長） 新妻様　今井様　中川様

本研究を実施するにあたり，学習に入る前の段階から八街市の廃棄物の現状について聞いたり，様々な資料を提供していただいたりした。どの方にもごみに対する正しい認識を児童につけさせるために積極的に関わっていただいた。特に課長の土屋様はこれからの廃棄物の課題について強い思いをもっており，大人が聞いても心がうごかされる程であった。今回の指導計画もこちらから提案するだけでなく，打ち合わせ時に共に意見を出し合いながら練り上げていくことができた。

銚子市　ガラスリソーシング株式会社　茂木様

八街市クリーンセンターからの情報提供により，八街市で回収された瓶や缶，ペットボトルなどは銚子市のガラスリソーシング株式会社で処理されていることが分かった。そのため，電話で研究の概要説明と協力依頼をしたところ，快く受け入れてくださった。こちらも資源の活用に関して前向きで強い思いをもっており，「子供たちに限りある資源を残したい」と話してくれた。

５０年以上八街市に在住している　　書家　三浦様

歴史的な認識をつけさせるため，八街市の昔のごみ処理について調べていたところ，三浦様と繋がり，クリーンセンターができる前のごみ処理を経験しているということでそのころの様子やどのような処理であったのかを聞くことができた。

（２）学習協力依頼までのステップ

八街市クリーンセンター

八街市クリーンセンターに本研究の概要を説明・協力依頼

↓

文書・授業計画作成

↓

打ち合わせ

↓

見学・授業実施

↓

児童の計画に沿って電話調査の依頼

外部業者についての情報提供依頼 → **ガラスリソーシング株式会社**

本研究の概要説明・協力依頼

↓

メールによる質問調査

↓

電話調査

↓

第三次に向けて打合せ

↓

授業実施

3　八街市のごみ処理について

八街市のごみの排出量は，平成２３年度の増加以降，近年の環境意識の向上により減少している。

また，平成１０年度に嵩上げ工事が完了した最終処分場の残余年数が９年程度と見込まれていたため，平成２１年度から家庭ごみの分別を見直し，燃やせないごみとしてそれまで埋め立てていたプラスチック製容器包装，硬質プラスチック，小型家電製品を新たに分別収集し資源化を進めている。平成 29 年度における市民一人当たりのごみ排出量は８９２ｇ（人・日）処理経費は１５，５７７（人・年）となっている。

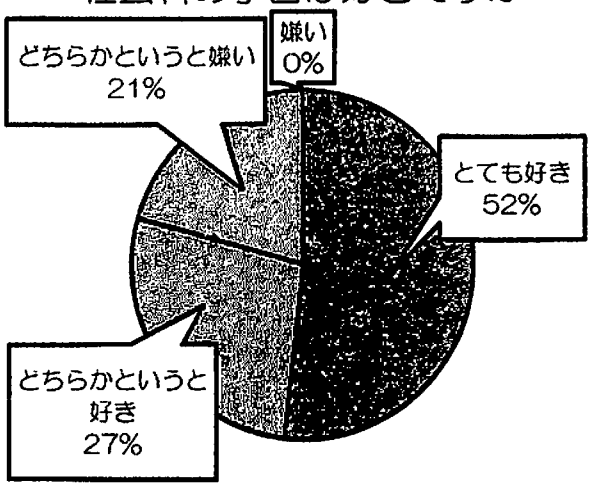
今後は，ごみ分別に係る中間処理経費等を抑制するため，市民の協力を仰ぎ，市内１，８００か所のごみステーションにおけるごみ分別の更なる適正化に努めることにより，ごみ処理経費の削減を図りつつ，３Ｒの推進による循環型社会の構築していく。

（平成 30 年度　八街市環境白書より抜粋）

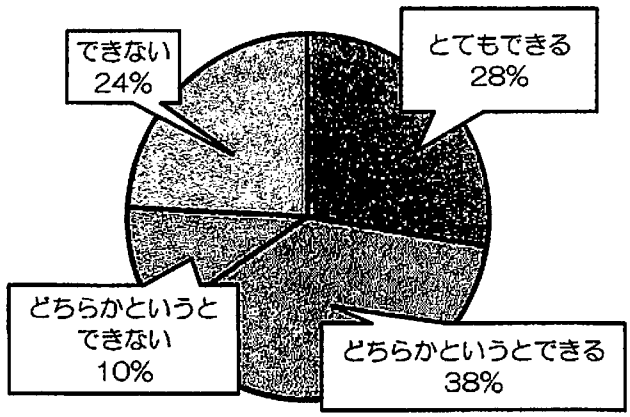
4　各種資料

【資料１】児童の実態（事前アンケートより）

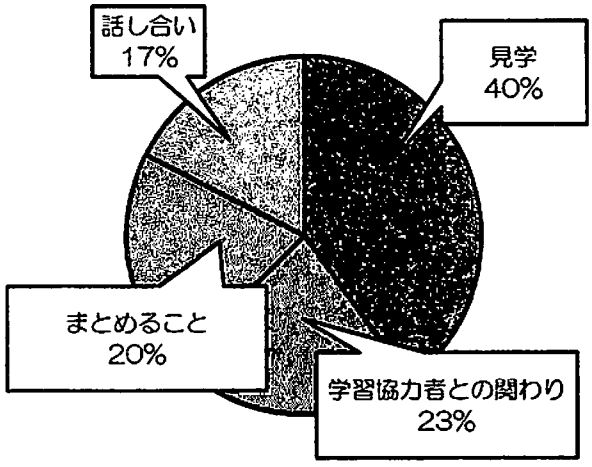
社会科の学習は好きですか



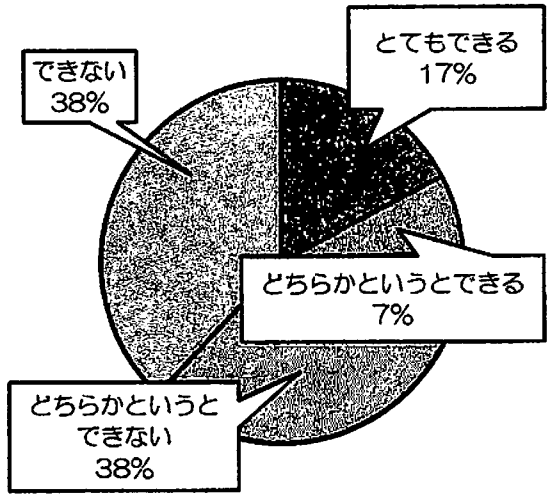
授業で自分の考えを相手に伝えることができますか



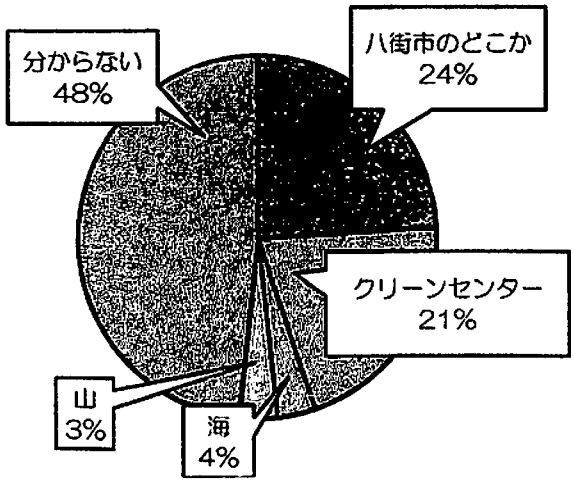
社会科の学習でどんなことが好きですか



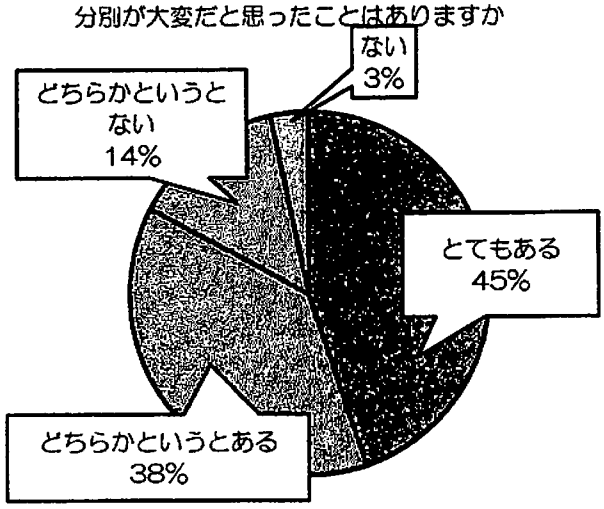
友達の意見を受け止めて話し合うことができますか



ごみはどこで処理されていると思いますか



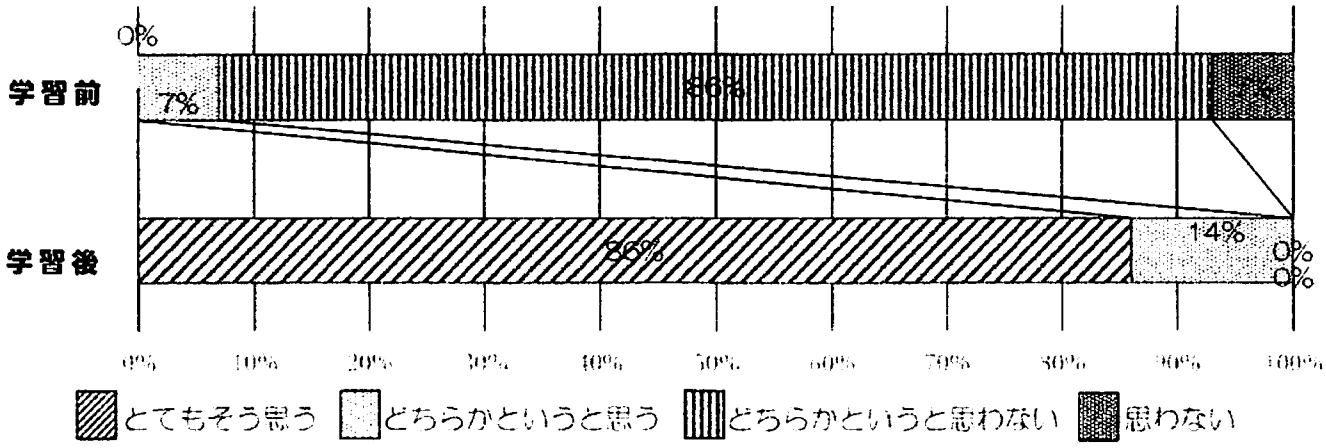
分別が大変だと思ったことはありますか



【資料２】自ら課題を設定し，その先への関心をもつことができたか

（１）事前事後アンケートから〈情意面の変容〉

ごみの未来について考えようと思いますか，



（２）児童へのアンケートとノートの記述から〈情意面の変容〉

○ごみ処理についてどう思いますか。

A児

学習前

ばんとも思っていないしたれかがやってくれている。

学習後

土屋さんたちの話を聞いて、自分とごみは関係が深いことに気づいた

対話的な学習によって関係が深いことに気づき，その先（未来）について考えようとしている。

学習前

B児

何にも思っていないです。

学習後

クリーンセンターや家庭それぞれの思いがあって問題は、解決しなきゃいけないと思った。

それぞれの立場の思いに触れて切実な問題であることを認識し，その先について考えようとしている。

C児

学習前

おもてなし

学習後

自分たちごみは、とても関係していていろいろな人がやってくれている。

自らも出すごみを処理してくれている人がいることを理解し，考えなくてはいけないことに気づいた表現。

（３）児童の行動から〈行動面の変容〉

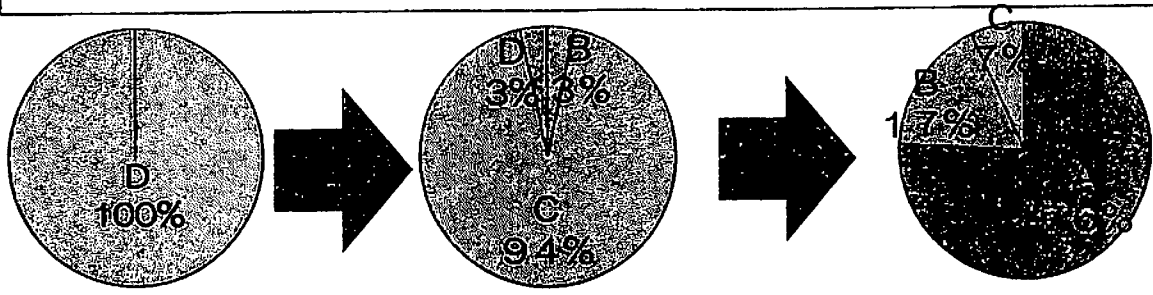
学校で資源を回収していることを知り，家庭から資源物を持ってきた児童

【資料３】社会的事象を自分事としてとらえることができたか

（１）ごみに対するノートの記述から

評価基準を次のように設定した。

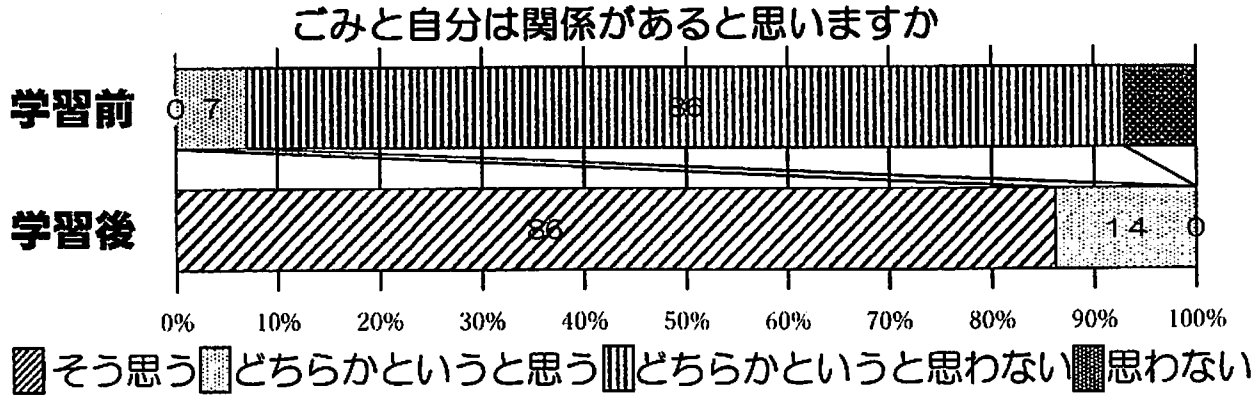
A	ごみの処理や活用について理解し，その問題や課題を把握した上で，そのために自分がどのように行動すればよいかが書けている。
B	ごみの処理や活用について理解し，その問題や課題を把握している。
C	ごみの処理や活用について理解している。
D	ごみの処理や活用について理解していない。

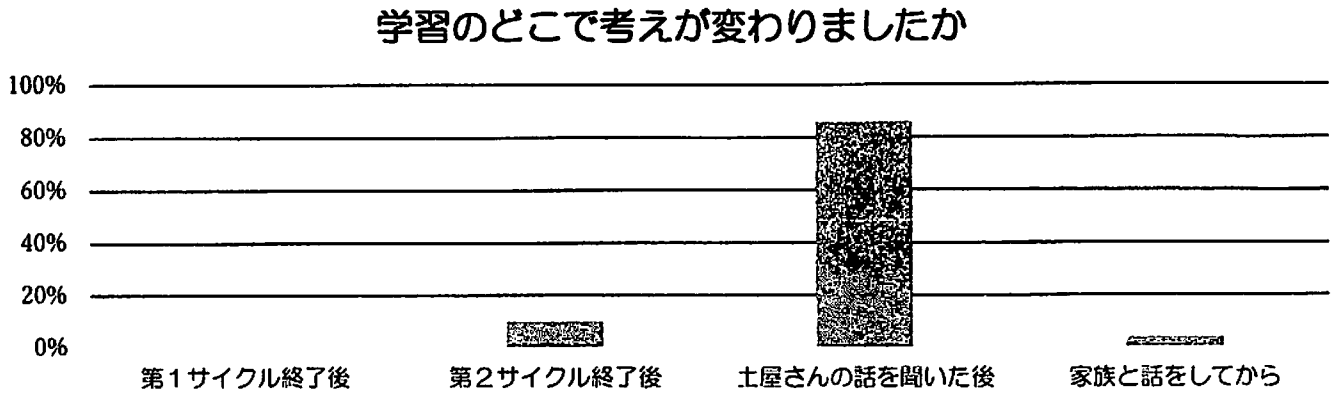


番号	学習前	評価	第２次終了後	評価	学習後	評価
1	いらないもの，汚いもの，邪魔	D	全部ごみではなかった．他の所に送られている．	C	ごみは使える．ビンはまたビンにしているから大切．ごみを増やさないようにこれから再利用できるものはしていきたい．	A
2	ごみは汚いからすぐ捨てたい．家にあってほしくない．	D	ごみは本当はごみじゃないことが分かった．	C	ごみはあまり出さない方が良いことが分かった．自分のものを大切にしていきたい．	A
3	ごみは臭くて，汚くて家にあってほしくない．	D	ごみはごみではなかった．	C	ごみはごみではなく資源だ．	B
4	ごみは臭くて汚いので，家にあってほしくないものです．	D	私たちがごみと言っているものはごみじゃないことを知った．	C	ごみは大切なもの．でも出さないようにすることが大切．いらないものは減るようにする．	A
5	ごみは臭くて汚い．家の中にあってほしくないものです．	D	ごみのことを調べて思いました．ごみはごみじゃない．もう一度使えるものもあるから	C	ごみは多すぎてダメになっている．どうせごみになるなら袋やストローを減る．	A
6	臭いし，汚いし，山が汚くなる．	D	ごみは全部いらないと思ってたけど，再利用されてる．	C	日本は便利だけどごみは減ってない．一番大事なのはごみを増やさないこと．家でも気をつけたいと思った．	A
7	汚い．邪魔．いらない！	D	ごみは資源なんだ．ごみは大切なものだと思いました．	C	ごみは皆にとって大切なもの．減らさなきゃいけない	B
8	ごみは臭くて汚いもの	D	いらないものだと思っていたけど，それは違って再利用できる．ごみは資源．	C	自分達の身の回りのものはほとんどごみじゃないから，大切にする．	A
9	いらないもの．汚い．臭い	D	生きていくために必要なもの．生まれ変わるもの．	C	生きていくために必要なものだけど，多すぎて問題になっている．	B
10	ごみは邪魔．どっか行け！	D	ごみはごみじゃない．	C	ごみは資源です．箱とかはペットボトルでできているから大切．	C
11	ごみは家にとって臭い．汚い．邪魔．	D	ごみはごみじゃない．資源．	C	プラスチックで海の生き物が死んでいる．減らさないといけない．	A
12	汚い．邪魔．気持ちない．なくなってほしい．	D	ごみは資源．大切なもの．価値のあるもの．	C	ごみはクリーンセンターにほぼきりにしない．食べるものを残さない．自分のものを大切に使う．	A
13	片付けるのが面倒だし．汚い．	D	ちょっと片付ける気になったけど．臭いし．いやだ．	D	本当はごみではないことに気づいた．でも減らすために考える．	A
14	ごみは臭いです．	D	ごみはごみじゃない．	C	減らさないといけない．	B
15	汚い．いらない．	D	資源になっている．必要．価値がある．	C	資源だけど減らそう．クリーンセンターに任せず．自分にできることをやってみたい．	A

16	気持ち悪い，汚い，臭い	D	分別するとごみがごみじゃなくなる ごみには価値がある．	C	ごみの分別も大事だけど，もっと大事なのは減らすこと．僕もできることをやりたい．	A
17	ごみは，臭い，汚い，邪魔	D	ごみは協力して資源にしている．	C	ごみは資源だけど，減らす必要がある．袋を減る．	A
18	いらないし見たくない．	D	ごみは分別したらごみは資源になる．	C	ごみは資源だけど出さないようにするために，買い物には袋や手提げをもっていく．	A
19	使えない，家にあってほしくない．	D	ごみが全部ごみじゃないことを知った．再利用をしている．	C	ごみには価値があることを知った．資源を大切にするために，今使っているものを大切にしてごみを少なくしたい．	A
20	汚い，気持ちわるそう．	D	使えるごみ，埋め立てているごみ以外は価値がある．	C	ごみを減らす，食べ物を粗末にしない．食べられる量を買う．	A
21	ごみは臭い，ごみはいらない．	D	調べて分かったことは，ごみはごみじゃなかった．	C	ごみはごみでも分別するとごみじゃない．	C
22	ごみを出すのが面倒．	D	ごみには価値がある．	C	リサイクルして生まれ変わるものがある．ごみの減量化をするためにできることをやる．	A
23	ごみは匂いが混ざって臭い．	D	私たちがごみと思っているものは，大切なものに変わる．	C	ごみは資源に変わる．これからは資源を捨てないようにする．	A
24	すごい臭い，分別面倒．	D	分別は面倒だけど，分別するとごみがごみじゃなくなる．	C	クリーンセンターの人たちは資源を強すために頑張ってくれていました．だから，私もできることをやりたい．	A
25	出す度にお金かかるし，分別面倒，臭い．	D	様々なところで活用されている．資源には価値がある．	C	ごみを減らすために残さず食べるようにする．	A
26	分別が面倒だし臭いし汚い．	D	分別は面倒だけど分別するとごみじゃなくなる．	C	クリーンセンターの人やそのほかの人が協力してくれているので，私も分別を頑張ってごみを減らしたい．	A
27	ごみはいらないからなくなってほしい．	D	資源は限りあるから大切にしないといけない．処理にたくさんの人が協力していた．	B	ごみを出しすぎると海の生き物が死んでしまったりするからごみを出さないように私も協力する．	A
28	ごみは見たくない，汚い	D	ごみはごみではなかった．	C	ごみを処理・削減するために，たくさんの人が協力していた．	B
29	ごみは臭い，汚い	D	資源には価値がある．	C	ごみは資源だけど減らさないといけない．私もできることを考える．	A

（2）事前事後アンケートから

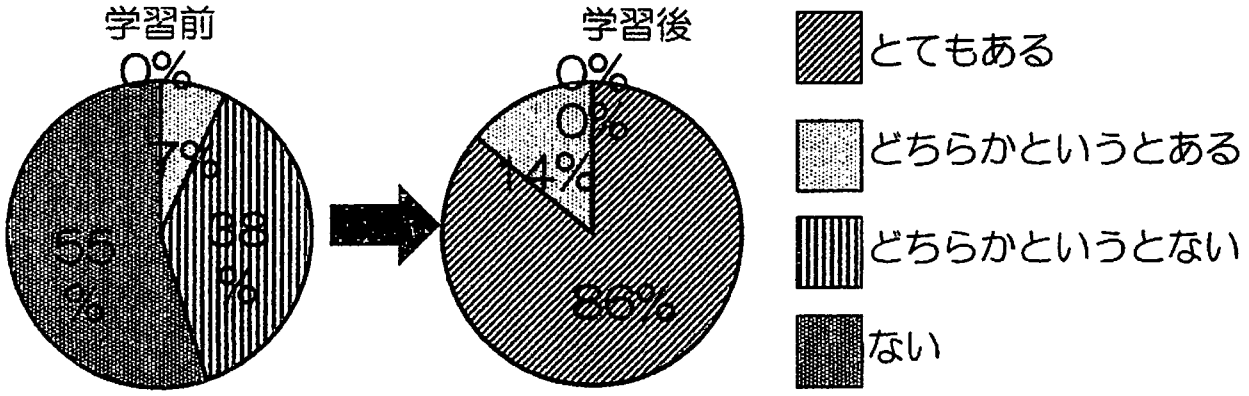




【資料４】学習を通して自己を振り返ることができたか

（１）事前事後アンケートから

社会科の学習を通して自分の生活を振り返ったり，行動が変わったりすることがありますか。



（２）児童の感想から

これまでは，ごみの分別を面倒に感じていたが，従事者の強い思いを受けて協力する意識が芽生えている。

分別することの重要性を理解し，ごみ処理に対する意識が変化している。

これまでの生活を振り返り，学習を通して
持続可能な社会づくりの視点で考えられている表現

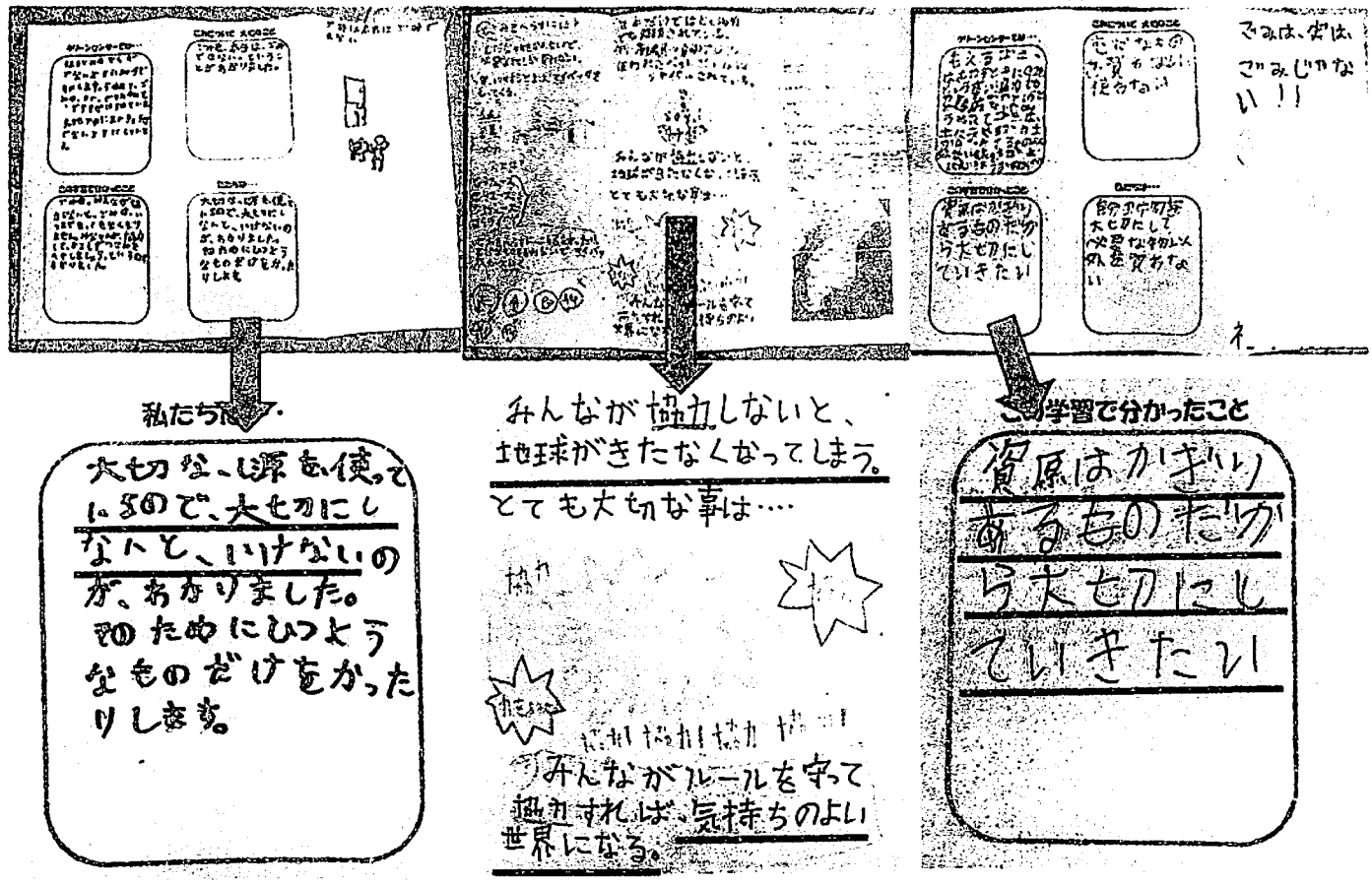
これまでの自分の生活の中で，今回の問題解決に向けてできることがあったと気付き，生活に変化が見られる記述

従事者の思いを受けて，面倒だと思っていた自分を反省し，行動の変化を書くことができている。

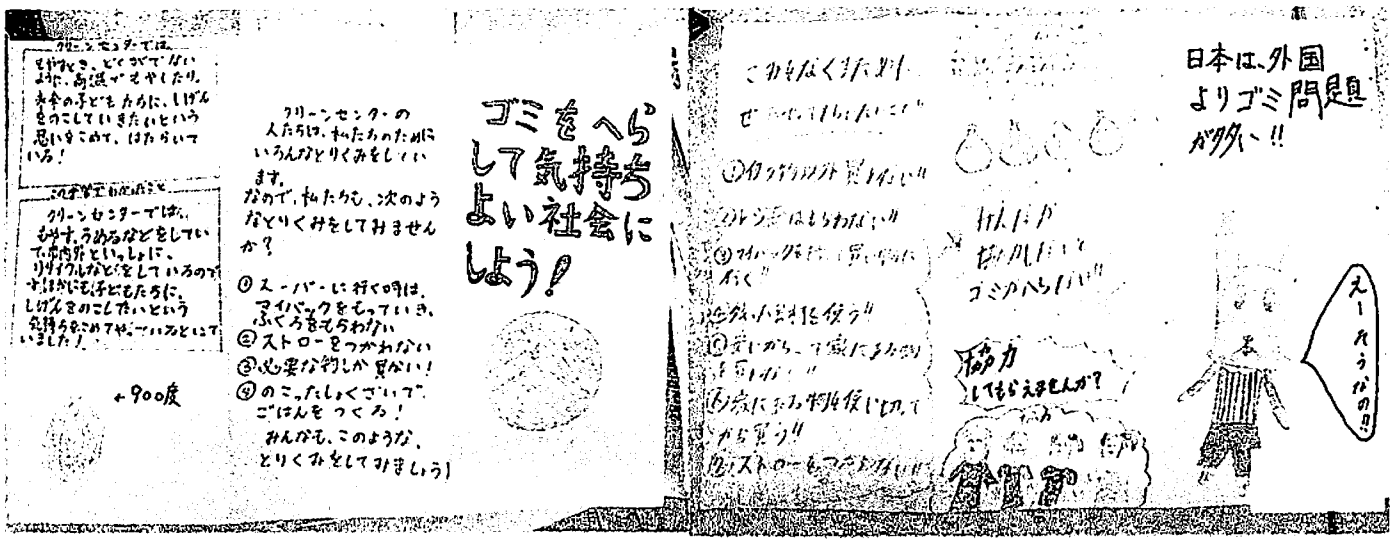
【資料５】共創しようとする力を高めることができたか

（１）リーフレットの記述から

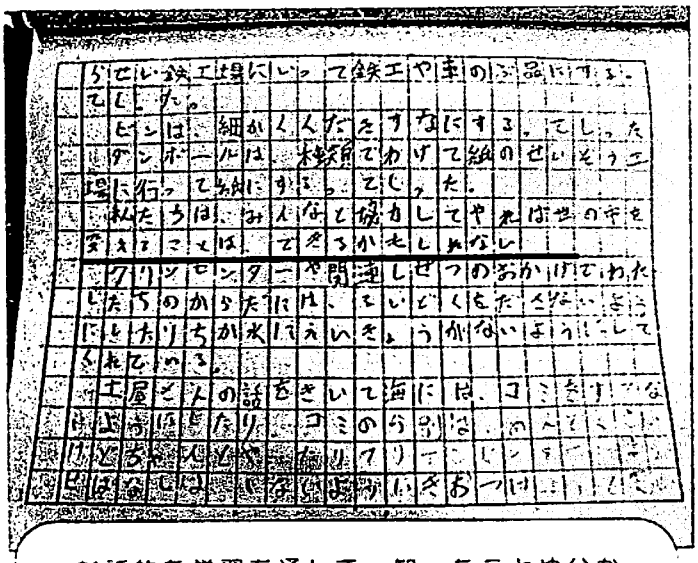
持続可能な社会づくりの視点



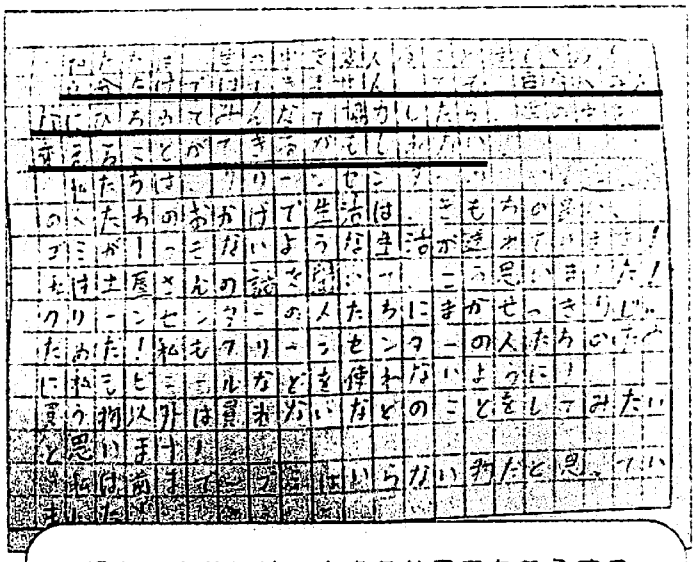
クリーンセンターの思いを受けた協力意識



（２）学習後のノートの感想から

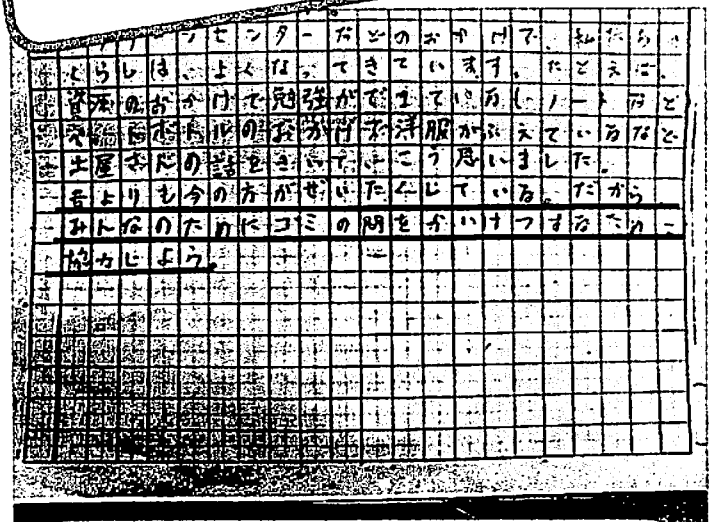


対話的な学習を通して，知ったことや分かったことを書くだけでなく，その先の未来を考えている。多くの人が意識すれば変わっていけることに気付くことができた。

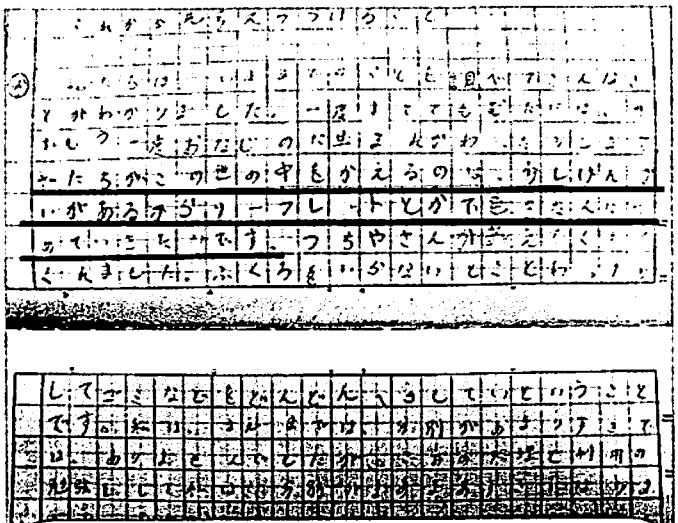


現在の自分には，大きな効果をもたらすことができないことに気付きながらも，広めて協力すれば変わるかもしれないという今後に繋がる記述が見られた。

１人の力・効果を理解し，これからを考え共創していこうとする表現



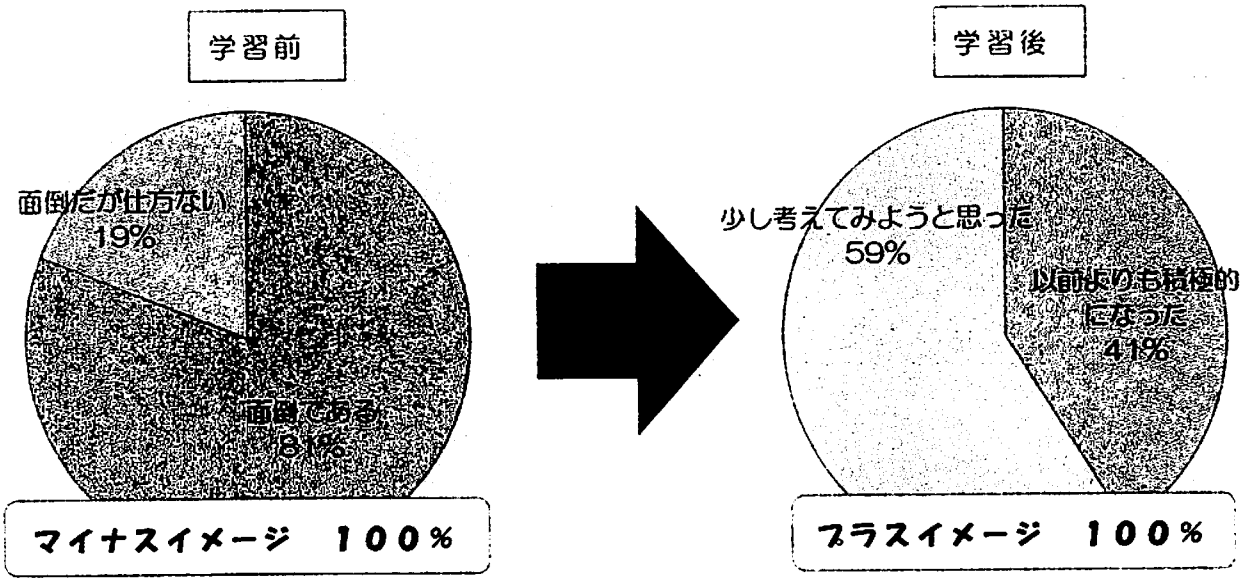
学習協力者との対話を通して，現在と過去を比較しながら書くことができている。ごみの問題を解決するためにこれからも協力することが重要であると認識することができた。



広めることで変化が生まれるかもしれないという思いをもち，今後も多くの人に伝え広めていきたいという記述が見られた。

（３）保護者アンケートから

ごみの分別や減量化についてどう思いますか。



学習後，家庭で何か変化がある，またはこれから変えようと思っていることはありますか。

- 買い物バッグは使ってもらえるように　しました。
  余計なものまで　ついつい買ってしまっていますが　リストを見てから
  使いきれるように　考えて買うようになった。
- 家庭の買い物は買い物バックをもらわない。
- 捨てる前に他の人が使えないか？修理して使えないか？を
  もう一度考える。
- なるべく　燃えるごみに入れる前に　分別できるものかを考えてから
  袋に入れることを心がけるようにします。
- ごみと資源の分別出しは、やっているが、ごみを出さない努力のうえを
  考えてみようと思った。物は大切に最後まで使う心がけ。ただ出さない
  ように工夫するなど、1人1人の考えもらうと努力を心がけたいです。
- もともと分別していたけど、もっとちゃんと徹底して
  家族も一緒に取り組める様にしたい。
- 親が知らなかった言葉、「4R」を教えてくれました。
  買い物に行き、ごみ袋の削減について"とても"大事な事なんだよと
  話してくれ自然の大切さを実感できました。

- ごみ取りサイクルの分別というと 缶類などいろいろありますが
  買い物にエコバックを持って行ったり シャンプーや洗剤は詰め替えを
  買ったり 買い物の際に はしや スプーン スポンジなどをなるべく もらわない
  ようにするなど なるべくごみを減らせる努力をしています。
- ごみとして出る物の中には リサイクルで新しい物に生まれ変わる
  物もあるので 分別をしっかりしてみて 子どもから学ぶこともらいました。
- ペットボトル、びん、缶 など、ついつい それぞれに捨てがち
  捨てることがあり、反省。
  必ず 洗うようにしようと思いました。
- 家でゴミをどう分別しているか ゴミ箱に何の種類のゴミを捨てているか改めて
  教えた。
- キッチンの面 お風呂の面など 無駄なものを省くように行った。
- ごみを減らす為に 長持ちする物を買わないようになって良かった。

これまで意識してこなかったという家庭も児童からの発信によって意識や行動に変化が見られる回答があった。また，以前から取り組んでいた家庭も意識が高まったという表記があった。

【資料６】本研究で使用したワークシート

①リサーチシート

リサーチ【Research】計画表　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿

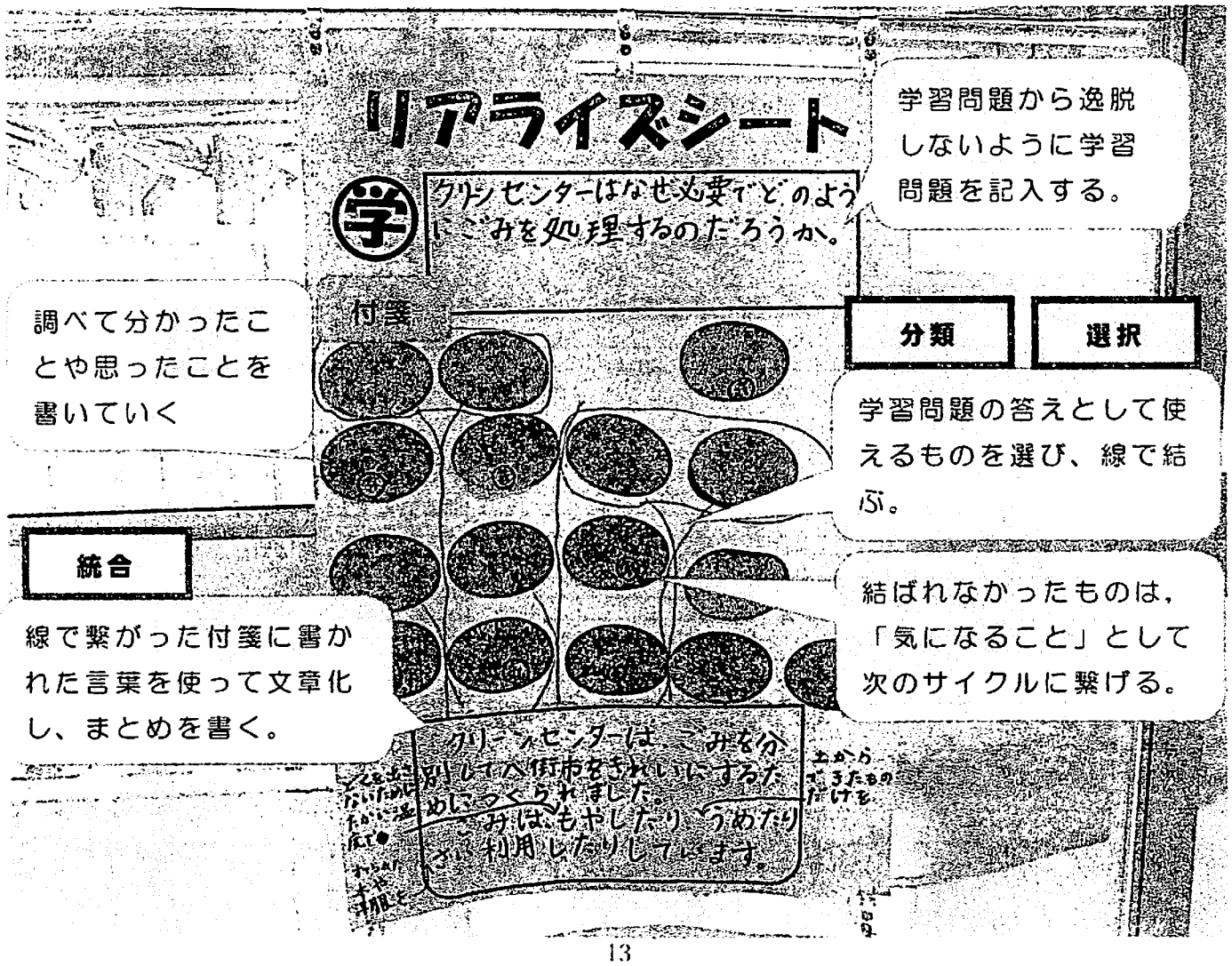
学　学習問題を常に意識することができるように学習問題を明記する。

何を調べる？	どのように調べる？

学習問題に対する予想をもとに調べたいことをリストアップする。

これまでの経験を踏まえてどのように調べていけば解決できるかを考え記述する。

②リアライズシート



学習問題から逸脱しないように学習問題を記入する。

調べて分かったことや思ったことを書いていく

学習問題の答えとして使えるものを選び、線で結ぶ。

結ばれなかったものは、「気になること」として次のサイクルに繋げる。

線で繋がった付箋に書かれた言葉を使って文章化し、まとめを書く。

【資料７】各調査の回答集

①クリーンセンターＦＡＸ（廃棄物の行方）

●廃棄物の行方（八街市クリーンセンター）

種類	処理場所	処理方法
鉄やアルミ	市内・市外の業者	鉄やアルミとして再利用
空き缶	銚子市の業者	鉄やアルミとして再利用
ペットボトル	銚子市の業者	作業服・ペットボトル・燃料など
プラスチック製容器包装	佐倉市→神奈川県	燃料やプラ製品
製品プラスチック	横芝光町	燃料
蛍光灯・乾電池	北海道	蛍光灯：水銀試薬など 乾電池：コーヒーなどの肥料
衣類（鞄・靴なども含む）	茨城県→東南アジア	古着として再利用 工業用雑巾 固形燃料
羽毛布団	東京都の業者	洗浄後、業務用羽毛布団として再利用
リサイクル品	市内業者	清掃・点検後リユースショップで販売
古紙・ダンボール	市内・市外の業者	再生紙・ダンボールなど
ビン	銚子市の業者	グラウンドの砂や路盤材
ガラス・陶磁器類	八街市クリーンセンター	埋め立て
小型家電	東京都の業者	金属を分別し再生利用
冷蔵庫・テレビなど	国	分解・分別し再生利用
パソコン	メーカー	分解・分別し再生利用
インクカートリッジ	メーカー	再生品として再利用
生ごみ・紙くずなど	八街市クリーンセンター	焼却
焼却灰	茨城県	道路の路盤材、ブロックなど

②クリーンセンター電話調査

八街市クリーンセンター
職員様　今井様　中川様

（質問内容）
・なぜ、ビンや缶はクリーンセンターで処理していないのか。

ビン→クリーンセンター機械がないから市外の業者にお願いしている。
アルミ・スチール缶→これまであった機械が古くなって使えなくなったため、市外の業者にお願いしている。

・乾電池は、どのように扱られ、どうなるのか。

ドラム缶でにつめて、トラックで東京都まで運ばれ、そこから船で北海道に届ける。乾電池はコーヒーの木の肥料に蛍光灯は試験に再利用される。

・ダンボールはどのようなルートで処理・運用されるのか。

ごみ集積所からトラックで工場に運ばれ、溶かして再生利用する。

・なぜ、市外に送るのか。

本当は、八街市でやりたいが、機械がなかったり設備がなかったりするため市外に協力してもらい処理・活用している。

・灰を八街市で処理しなくなったのはなぜか。

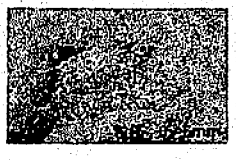
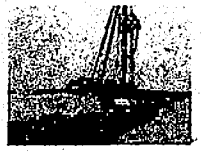
八街のクリーンセンターにも焼却炉（ようゆうろ：灰を溶かすためにかなり高温で焼やすことができる機械）はあるが、東日本大震災の影響で放射能（ほうしゃのう：体に悪影響を及ぼすもの）の問題があったため、決められた地域で処理するようになった。また、かなりの高温を作り出すために電気代やその他の費用がかなり掛かるため市外でまとめて処理してもらっている。

・様々な工夫をして、ごみを削減することでどんないいことがあるのか。

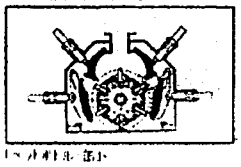
ごみが資源になる→ごみが減る→処理する費用が減る→市民のためにできることが増える。

③リサイクル業者（ガラスリソーシング株式会社）メール調査

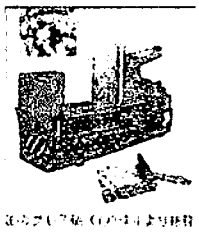
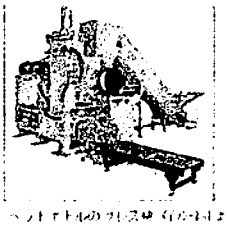
・どんな機械を使って処理しているのか。
「ガラスびん」
→当社のリサイクル方法は、ガラスびんを熱処理かけずに破砕のみでガラス特有の内容物リサイクロ材に加工し、山の砂の替わりとして、ガラス材（サンドウエーブ®）にリサイクルしています。リサイクルされたサンドウエーブ®は、公共工事の路盤材料として利用されています。
製品（サンドウエーブ®（0-5mm））

破砕（はさい）イメージ



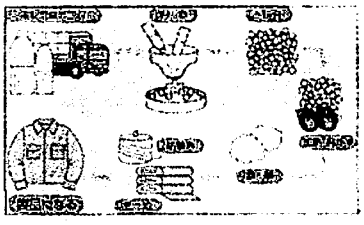
「ペットボトル」缶
→市民の方が綺麗に分別して排出されたペットボトル缶は、プレス機で加工され、下の写真のようなかたまりにし、専用に戻っていきます。

プレス機で加工されたペットボトル缶　ペットボトルのプレス機（プレス機）

・ペットボトルはどのように再利用されるのか。
→ペットボトルは、ボトルの製造工場にて、再度ボトルに加工されたり、他の用途に使用されます。

つぶしたスチール缶は、鉄の溶かして戻していき、再度スチール缶に戻されたり自動車部品・建材・鉄道に利用されています。
・ビンやペットボトルはどのように利用されているのか。
「ガラスびん」
→透明なびんと茶色のびんは、もう一度びんの原材料としてリサイクルされています。
色付きびん（緑色・青色など）は、山の砂の替わりとして、ガラス材（サンドウエーブ®）にリサイクルされています。
「ペットボトル」
→ペットボトル・紙パック、プラスチックとにリサイクルされています。
・いつから八街市から出る資源ごみを受け入れているのか。
→八街市からのガラスびんは、平成27年4月より受入れしています。缶は、平成27年5月より受入れしています。
・ペットボトルを使ったものにどのようなものがあるのか。
→ペットボトルのかたまりを粉砕したものを、熱を加えて固体にします。その固体を型の中から押し出すと、ヤ状になります。そこから更に伸ばしていき糸のような状態にしてから糸を編んで生地にしていきます。

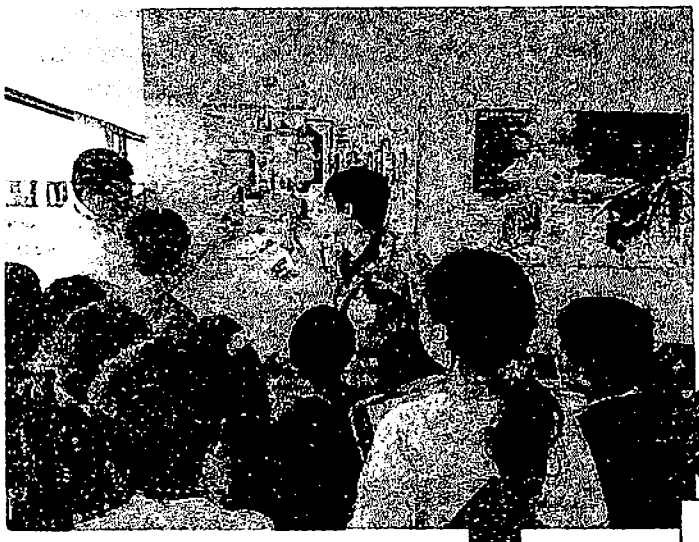


・ガラスリソーシング株式会社さんはいつからあるのか。
→平成18年1月からリサイクル事業を行っています。
・どんな作業で資源の再利用をしているか。
→資源は限りあるものなので、再利用できるものは再利用する。限りある資源は、将来の子どもたちへ残していきたいという強い思いから、リサイクル事業を行っています。
・[illegible]
→資源ごみの中に資源ごみ以外のごみが混入していると、リサイクルが大変になってしまう。そのため、ごみの分別をしっかりと行ってもらい資源ごみは、出してもらいたいと思います。
・どれくらいの人が働いているか。
→当社工場が4か所あり、約100人が働いております。

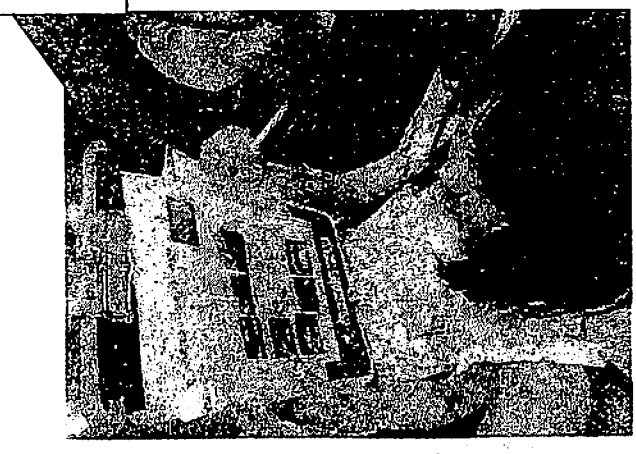
【資料８】八街市社会科副読本「わたしたちの八街市」の活用

八街市教育センターの事業により，平成２９年告示の学習指導要領に沿った流れになるように副読本の改定を行なった。本研究でも活用し，児童の理解を深める一助となった。

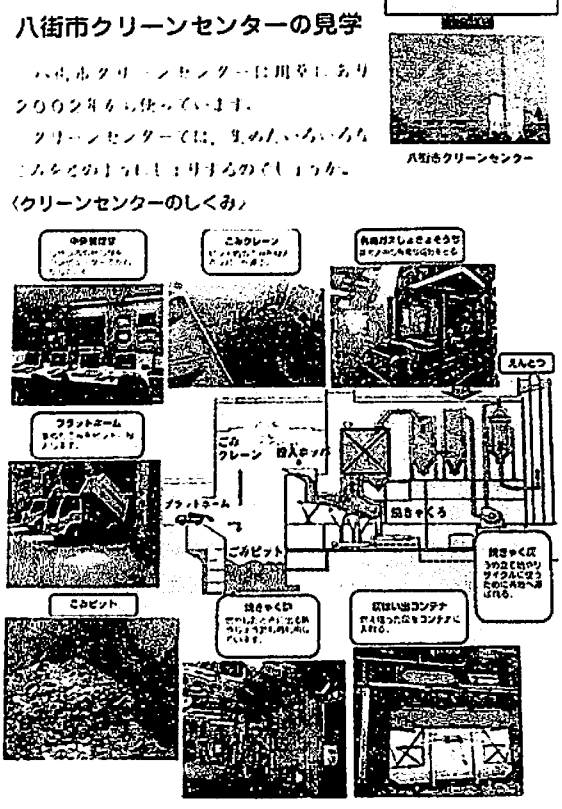
＜副読本活用時の様子＞



資料活用



事前指導

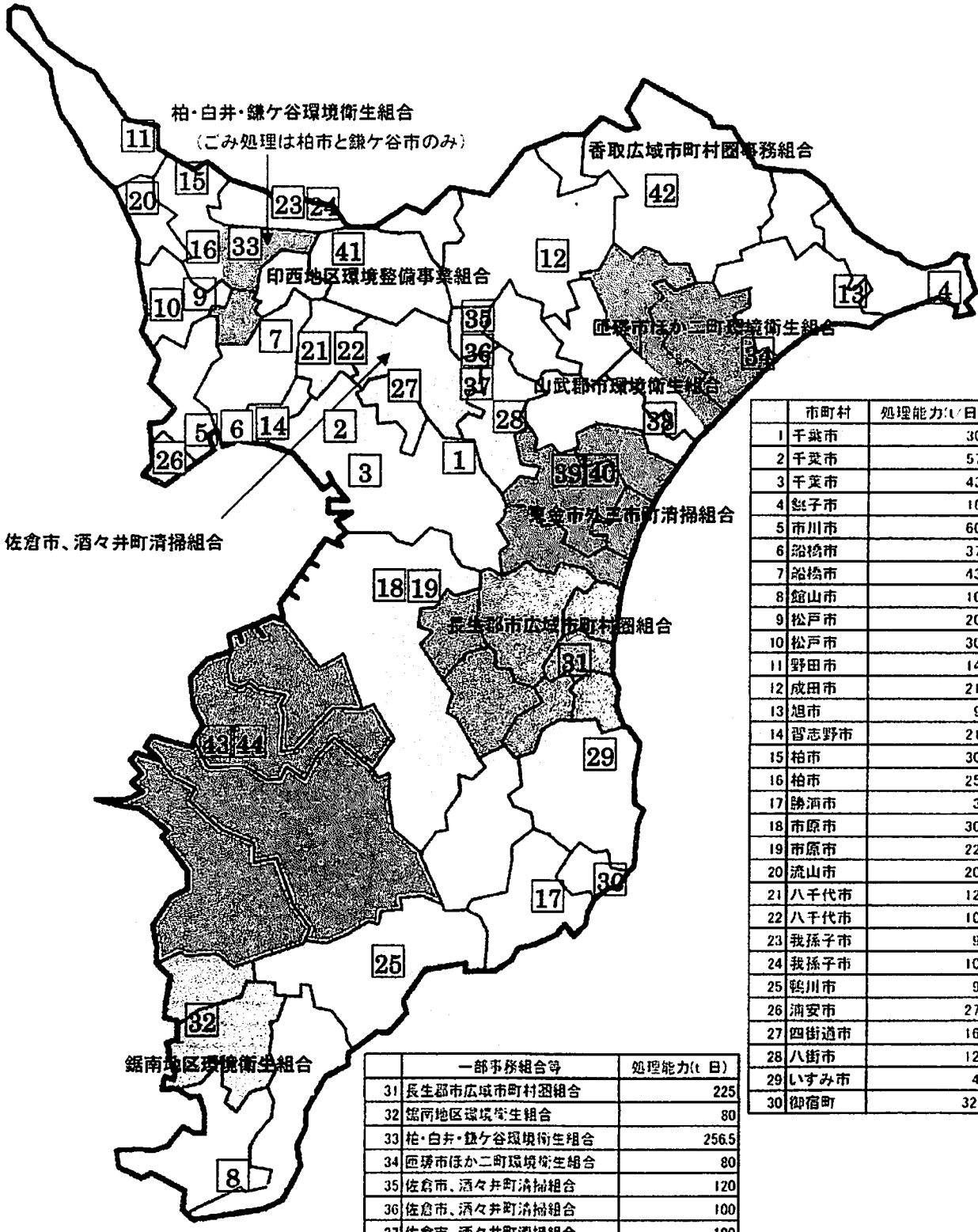


クリーンセンター内での授業において，副読本の資料を見ながら従事する方の説明を聞いた。クリーンセンター内に展示されている資料では，専門用語が多く，分かりづらい部分も副読本では児童用に易しくしているため，理解を助け，より有意義な質問をするこ

【資料９】千葉県内の廃棄物処理について

（１）ごみ焼却施設設備整備状況

（平成２９年３月末現在。休止施設及び試運転中の施設を除く。）



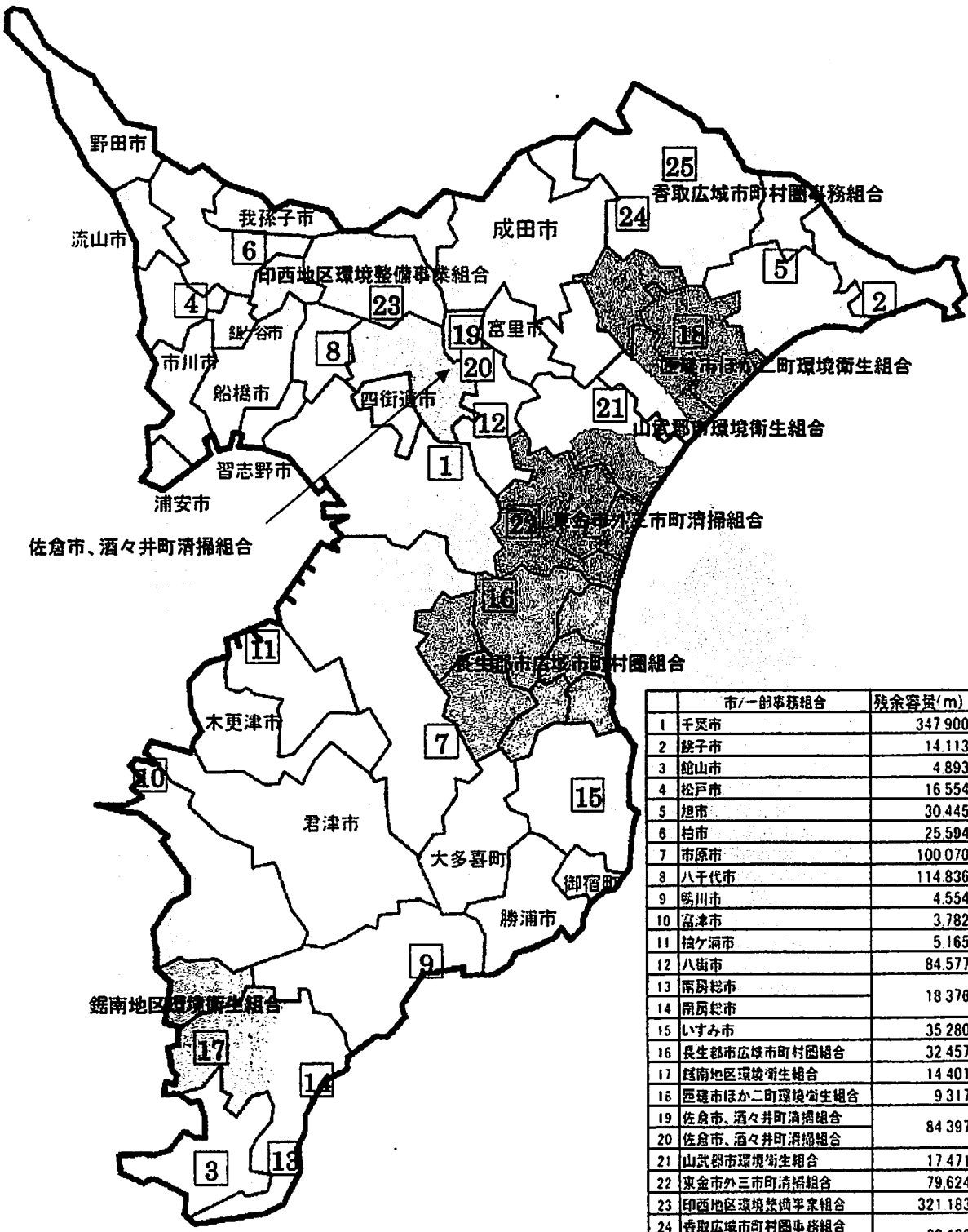
	市町村	処理能力(t/日)
1	千葉市	300
2	千葉市	570
3	千葉市	435
4	銚子市	165
5	市川市	600
6	船橋市	375
7	船橋市	435
8	館山市	100
9	松戸市	200
10	松戸市	300
11	野田市	145
12	成田市	212
13	旭市	95
14	習志野市	219
15	柏市	300
16	柏市	250
17	勝浦市	35
18	市原市	300
19	市原市	220
20	流山市	207
21	八千代市	120
22	八千代市	100
23	我孫子市	90
24	我孫子市	105
25	鴨川市	95
26	浦安市	270
27	四街道市	165
28	八街市	125
29	いすみ市	48
30	御宿町	32.5

	一部事務組合等	処理能力(t/日)
31	長生郡市広域市町村圏組合	225
32	鋸南地区環境衛生組合	80
33	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合	256.5
34	匝瑳市ほか二町環境衛生組合	80
35	佐倉市、酒々井町清掃組合	120
36	佐倉市、酒々井町清掃組合	100
37	佐倉市、酒々井町清掃組合	100
38	山武郡市環境衛生組合	110
39	東金市外三市町清掃組合	210
40	東金市外三市町清掃組合	26
41	印西地区環境整備事業組合	300
42	香取広域市町村圏事務組合	135
43	㈱かずさクリーンシステム	200
44	㈱かずさクリーンシステム	250

千葉県ホームページより

（２）最終処分場残余容量

（平成２９年３月末現在。休止施設分を含む。稼働前施設分は含まず。）



	市/一部事務組合	残余容量(m)
1	千葉市	347,900
2	銚子市	14,113
3	館山市	4,893
4	松戸市	16,554
5	旭市	30,445
6	柏市	25,594
7	市原市	100,070
8	八千代市	114,836
9	鴨川市	4,554
10	富津市	3,782
11	袖ケ浦市	5,165
12	八街市	84,577
13	南房総市	18,376
14	南房総市	
15	いすみ市	35,280
16	長生郡市広域市町村圏組合	32,457
17	鋸南地区環境衛生組合	14,401
18	匝瑳市ほか二町環境衛生組合	9,317
19	佐倉市、酒々井町清掃組合	84,397
20	佐倉市、酒々井町清掃組合	
21	山武郡市環境衛生組合	17,471
22	東金市外三市町清掃組合	79,624
23	印西地区環境整備事業組合	321,183
24	香取広域市町村圏事務組合	62,189
25	香取広域市町村圏事務組合	

千葉県ホームページより

【資料 10】印旛８市町（八街市以外）の廃棄物処理施設について

佐倉市・酒々井町

施設：酒々井リサイクル文化センター

廃棄物の行方：ペットボトル→佐倉市内業者　ビン→銚子市業者　缶→八街市内工場
乾電池→茨城県内業者　蛍光灯→北海道

従事者の思い：最終処分場の延命のため埋め立ての袋には資源として活用できないものだけ入れてほしい。現在は，集められたものを手選別で分別している。

成田市

施設：成田富里いずみ清掃工場

廃棄物の行方：成田市リサイクルプラザ
金属類→県内外の業者　ペットボトル→茨城県内業者
ビン→栃木県内業者

従事者の思い：燃えるごみに資源が混ざっているため，できる限りリサイクルして減量化に努めてほしい。

富里市

施設：成田富里いずみ清掃工場（可燃物），富里市クリーンセンター（その他）

廃棄物の行方：金属類→県内外の業者　ペットボトル→茨城県内業者
缶→成田市内業者　プラスチック→有価物を仕分けして県内外の業者

従事者の思い：ごみの減量化をしてほしい。しかし，ごみをただ減らすだけだと生活に負担がかかる可能性があるので，できる限り取り組んでほしい。

印西市・白井市・栄町

施設：印西市クリーンセンター

廃棄物の行方：３市町の中の業者にお願いできるようにしているが県内外に協力してもらっているものもある。

従事者の思い：ごみの出し方が３市町で異なるのでクリーンセンターの基準で分けるのが難しい。３市町そろうと良い。分別をして資源になるものは資源としてごみの減量化をしてほしい。

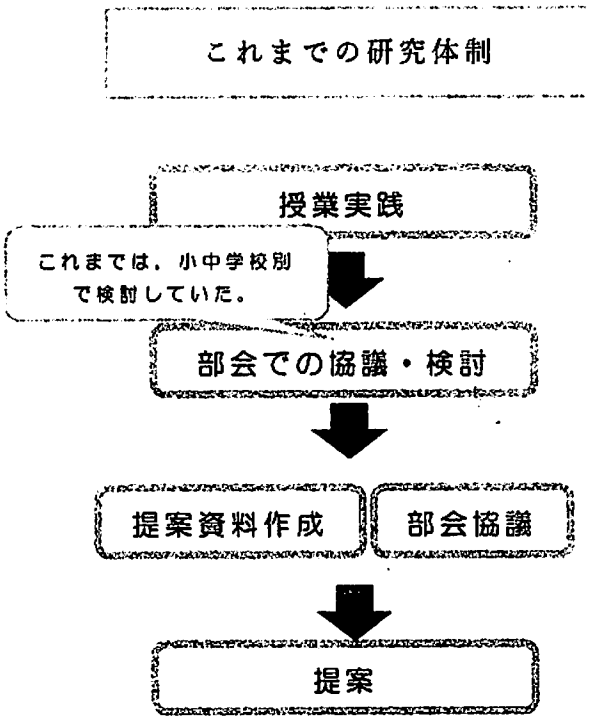
四街道市

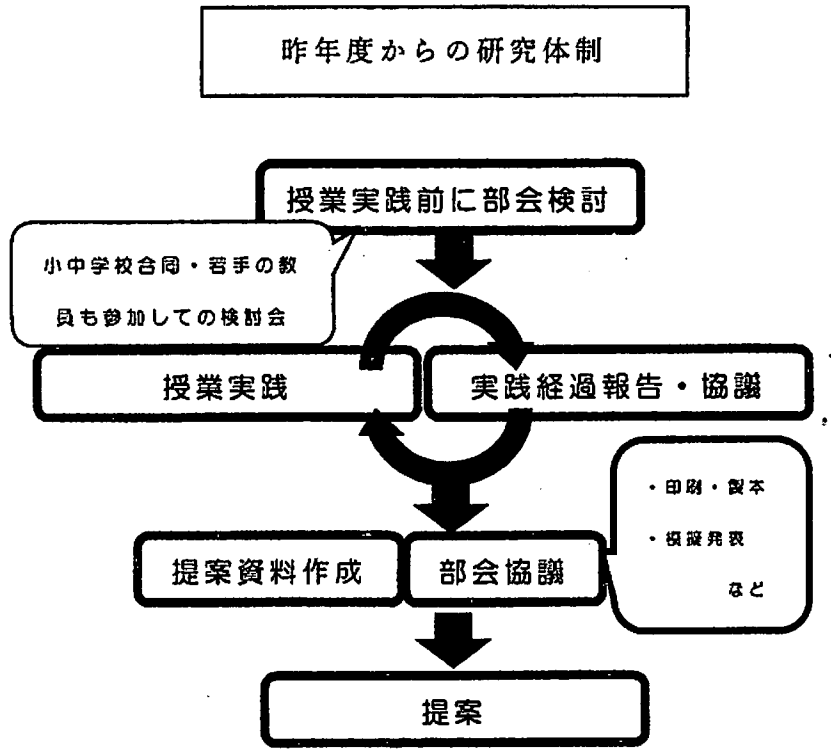
施設：四街道市クリーンセンター

廃棄物の行方：ペットボトル・ビン・缶→市内業者　焼却灰→茨城・山形県内業者

従事者の思い：分別を徹底してごみを減らしてほしい。灰の処理をしてくれている他県でも限られた量しか処理できないため焼却しなければいけないものを減らしたい。

○第４部会社会科研究部　研究体制





この研究体制のメリットとして

授業実践前に検討する時間を設けることで，より効果的な実践を組織で考えることができた。また，小中学校合同・若手教員も含んだ大人数で話し合うことで，様々な視点からの意見を聞くことができた。

実践中も同様に協議を重ねながら取り組み，発問や資料についても吟味することができた。

○参考文献・資料

・「社会参画の授業づくり」（泉　貫久・梅村松秀・福島義和・池田　誠　古今書院）
・「思考力・判断力・表現力を鍛える新社会科の指導と評価」（北　俊夫　明治図書）
・「わたしたちの八街市」（八街市教育委員会　帝国書院）
・千葉県ホームページ（https://www.pref.chiba.lg.jp/）
・八街市ホームページ（https://www.city.yachimata.lg.jp/）
・成田市ホームページ（https://www.city.narita.chiba.jp/）
・佐倉市ホームページ（http://www.city.sakura.lg.jp/）
・富里市ホームページ（http://www.city.tomisato.lg.jp/）
・印西市ホームページ（http://www.city.inzai.lg.jp/）
・四街道市ホームページ（https://www.city.yotsukaido.chiba.jp/）